

(様式第10)

金大病総第57号
平成26年10月1日

東海北陸厚生局長 殿

金沢大学附属病院長 並木 幹夫 印

国立大学法人金沢大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成25年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

| | |
|-----|---------------------|
| 住 所 | 〒920-1192 石川県金沢市角間町 |
| 氏 名 | 国立大学法人金沢大学 |

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

| |
|----------------|
| 国立大学法人金沢大学附属病院 |
|----------------|

3 所在の場所

| | |
|---------------|------------------|
| 〒 920 - 8641 | 電話(076) 265-2000 |
| 石川県金沢市宝町13番1号 | |

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

| |
|---|
| <input checked="" type="radio"/> ① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 |
| <input type="radio"/> ② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜 |

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

| | |
|--|--|
| 内科 | <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 |
| 内科と組み合わせた診療科名等 | |
| 1 消化器内科 2 内分泌・代謝内科 3 リウマ・膠原病内科 4 呼吸器内科 5 循環器内科 6 腎臓内科 7 血液内科 | |
| 8 総合診療内科 9 神経内科 10 リウマチ科 11 腫瘍内科 | |
| 診療実績 | |

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科名等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

| | |
|---|---------|
| 外科 | 有 ・ (無) |
| 外科と組み合わせた診療科名等 | |
| 1 心臓血管外科 2 呼吸器外科 3 胃腸外科 4 肝胆膵・移植外科 5 内分泌・総合外科 6 整形外科 7 脊椎・脊髄外科 8 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 9 脳神経外科 10 腫瘍外科 11 内分泌外科 12 肝臓・胆のう・膵臓・移植外科 13 乳腺外科 | |
| 診療実績 | |

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他標榜していることが求められる診療科名

| |
|---|
| ①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8 産科 9 婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 16 救急科 |
|---|

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

| | |
|----------------------|---------|
| 歯科 | 有 ・ (無) |
| 歯科と組み合わせた診療科名等 | |
| 1 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7 | |
| 歯科の診療体制 | |

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

| |
|--|
| 1 神経科精神科 2 子どものこころの診療科 3 乳腺科 4 産科婦人科 5 麻酔科蘇生科 6 核医学診療科 7 病理診断科 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 |
|--|

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

| | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-------|-------|
| 精神 | 感染症 | 結核 | 療養 | 一般 | 合計 |
| 46 床 | 0 床 | 0 床 | 0 床 | 792 床 | 838 床 |

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年 6月 1日現在)

| 職 種 | 常 勤 | 非 常 勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|-------|-------|-------|---------|---------|------|-------------|-------|
| 医 師 | 390 人 | 120 人 | 475.0 人 | 看護補助者 | 54 人 | 診療エックス線技師 | 0 人 |
| 歯科医師 | 9 人 | 7 人 | 13.0 人 | 理学療法士 | 11 人 | 臨床検査技師 | 55 人 |
| 薬 剤 師 | 47 人 | 3 人 | 49.3 人 | 作業療法士 | 7 人 | 衛生検査技師 | 4 人 |
| 保 健 師 | 0 人 | 0 人 | 0.0 人 | 視能訓練士 | 8 人 | 臨 床 検 査 師 | 0 人 |
| 助 産 師 | 22 人 | 0 人 | 22.0 人 | 義肢装具士 | 0 人 | その他 | 0 人 |
| 看 護 師 | 840 人 | 13 人 | 848.8 人 | 臨床工学技士 | 9 人 | あん摩マッサージ指圧師 | 0 人 |
| 准看護師 | 0 人 | 1 人 | 0.7 人 | 栄 養 士 | 0 人 | 医療社会事業従事者 | 5 人 |
| 歯科衛生士 | 1 人 | 0 人 | 1.0 人 | 歯科技工士 | 1 人 | その他の技術員 | 17 人 |
| 管理栄養士 | 8 人 | 1 人 | 8.7 人 | 診療放射線技師 | 36 人 | 事務職員 | 155 人 |
| | | | | | | その他の職員 | 14 人 |

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

(注) 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年 6月 1日現在)

| 専門医名 | 人 数 | 専門医名 | 人 数 |
|-------------|------|-------------|-------|
| 総合内科専門医 | 26 人 | 眼 科 専 門 医 | 12 人 |
| 外 科 専 門 医 | 38 人 | 耳鼻咽喉科専門医 | 11 人 |
| 精 神 科 専 門 医 | 6 人 | 放射線科専門医 | 22 人 |
| 小 児 科 専 門 医 | 16 人 | 脳神経外科専門医 | 11 人 |
| 皮 膚 科 専 門 医 | 8 人 | 整形外科専門医 | 15 人 |
| 泌尿器科専門医 | 10 人 | 麻 酔 科 専 門 医 | 9 人 |
| 産婦人科専門医 | 11 人 | 救急科専門医 | 6 人 |
| | | 合 計 | 201 人 |

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

| | 歯 科 等 以 外 | 歯 科 等 | 合 計 |
|-------------------|-----------|--------|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 728.5 人 | 6.8 人 | 735.3 人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 1516.0 人 | 61.9 人 | 1577.9 人 |
| 1日当たり平均調剤数 | | | 1366.8 剤 |
| 必 要 医 師 数 | | | 166.9 人 |
| 必 要 歯 科 医 師 数 | | | 3.9 人 |
| 必 要 薬 剤 師 数 | | | 25 人 |
| 必 要 (准) 看 護 師 数 | | | 423 人 |

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

(注) 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

(注) 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

| 施設名 | 床面積 | 主要構造 | 設備概要 | |
|--------------|----------------------|---------------|---------------------------|---|
| 集中治療室 | 370.2 m ² | 鉄筋コンクリート | 病床数 | 22床 |
| | | | 人工呼吸装置 | (有)・無 |
| | | | その他の救急蘇生装置 | (有)・無 |
| 無菌病室等 | [固定式の場合] [移動式の場合] | 床面積 台数 | 202 m ² 12台 | 心電計 (有)・無 心細動除去装置 (有)・無 ペースメーカー (有)・無 病床数 16床 |
| 医薬品 情報管理室 | [専用室の場合] [共用室の場合] | 床面積 共用する室名 | 73 m ² | |
| 化学検査室 | 559 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 免疫発光測定装置、全自動免疫測定装置、ディスクリット方式臨床化学自動分析装置、検体前処理装置、蛋白分画電気泳動分析装置、免疫比濁測定装置、心電図解析用全自動電気泳動分析装置、迅速糖尿病生理機能検査装置、迅速糖化診断生理機能検査装置、自動浸透圧分析装置、乾式臨床化学分析装置、自動化学分析装置、大腸生理機能予備検査装置、総合生理機能検査前輸血支援システム、赤血球沈降速度測定装置、汎用血液ガス分析装置、血液検査システム、呼気中13CO ₂ 分析装置、臨床検査支援システム、恒温器、血液検査装置、心疾患関連マーカー自動測定器システム、遠心機、蒸留水製造装置、尿化学分析装置、顕微鏡、精子特性分析機 |
| 細菌検査室 | 94 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 血液培養装置、同定・薬剤感受性パネル自動測定装置、全自動細菌検査システム、クリーンベンチ、サーマルサイ클ラー、結核菌迅速診断装置、マイクロチップ電気泳動システム、嫌気ワークステーション、全自動遺伝子解析システム、遺伝子解析装置、恒温器、炭酸ガス培養装置、遠心機、乾熱滅菌器、高圧滅菌器、純水製造装置、顕微鏡 |
| 病理検査室 | 112 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 全自動免疫染色装置、自動固定包埋装置、自動染色装置 |
| 病理解剖室 | 134 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 無影灯、解剖台、計量器 |
| 研究室 | 888 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 血液ガス分析装置、マイクロプレートリーダー、手術支援ロボット、セルアライブシステム(CAS)+急速凍結装置、超低温フリーザー、低温恒温装置、バイオハザード対象用キャビネット、遠心分離機、インキュベーター、高速タンパクプロテソティングシステム、オートクレーブ、クリーン・ベンチ、顕微鏡、蛍光実体顕微鏡、薬用冷凍冷蔵庫、低温冷凍庫、ドラフト |
| 講義室 | 267 m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 1室 |
| 図書室 | 146 m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 2室 |
| | | | 収容定員 | 300人 |
| | | | 蔵書数 | 1900冊程度 |

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

(注) 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

| 算 定 期 間 | | 平成25年 4月 1日 ~ 平成26年 3月31日 | |
|------------------|-----------------------|---------------------------|--------|
| 紹 介 率 | 64.4 % | 逆 紹 介 率 | 42.0 % |
| 算 出 根 拠 | A：紹 介 患 者 の 数 | 10,418 人 | |
| | B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | 7,054 人 | |
| | C：救急用自動車によって搬入された患者の数 | 387 人 | |
| | D：初 診 の 患 者 の 数 | 16,786 人 | |

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|--------------------------------|-------|
| 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 | 0 人 |
| 自家液体窒素処理骨移植 | 27 人 |
| 難治性眼疾患に対する羊膜移植術 *H26. 4. 1保険収載 | 0 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|--|-------|
| 化学療法に伴うカフェイン併用療法 悪性骨腫瘍又は悪性軟部腫瘍 *H26. 10. 1削除 | 0 人 |
| ボルテゾミブ静脈内投与、メルファラン経口投与及びデキサメタゾン経口投与の併用療法 原発性ALアミロイドーシス | 0 人 |
| パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法 腹膜播種又は進行性胃癌(腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。) | 0 人 |
| 術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。) | 1 人 |
| 経皮的肺がんラジオ波焼灼療法 原発性又は転移性肺がん(切除が困難なものに限る。)*H25. 11. 1取り下げ | 0 人 |
| 経皮的腎がんラジオ波焼灼療法 原発性又は転移性腎がん(切除が困難なものに限る。)*H25. 11. 1取り下げ | 0 人 |
| 腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃癌 *H25. 10. 1取り下げ | 0 人 |
| 根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援 前立腺がん *H25. 11. 1取り下げ | 0 人 |
| 内視鏡下手術用ロボットを用いた冠動脈バイパス手術(一箇所を吻合するものに限る。) 虚血性心疾患 *H26. 1. 1取り下げ | 2 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|-----------|--|-------|---|
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |

- (注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。
- (注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾 患 名 | 取扱患者数 | 疾 患 名 | 取扱患者数 |
|--|-------|--|-------|
| ・ベーチェット病 | 77 人 | ・膿疱性乾癬 | 5 人 |
| ・多発性硬化症 | 66 人 | ・広範脊柱管狭窄症 | 8 人 |
| ・重症筋無力症 | 103 人 | ・原発性胆汁性肝硬変 | 119 人 |
| ・全身性エリテマトーデス | 316 人 | ・重症急性膵炎 | 15 人 |
| ・スモン | 3 人 | ・特発性大腿骨頭壊死症 | 81 人 |
| ・再生不良性貧血 | 102 人 | ・混合性結合組織病 | 48 人 |
| ・サルコイドーシス | 115 人 | ・原発性免疫不全症候群 | 17 人 |
| ・筋萎縮性側索硬化症 | 45 人 | ・特発性間質性肺炎 | 23 人 |
| ・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 551 人 | ・網膜色素変性症 | 26 人 |
| ・特発性血小板減少性紫斑病 | 85 人 | ・プリオン病 | 10 人 |
| ・結節性動脈周囲炎 | 59 人 | ・肺動脈性肺高血圧症 | 16 人 |
| ・潰瘍性大腸炎 | 221 人 | ・神経線維腫症 | 15 人 |
| ・大動脈炎症候群 | 37 人 | ・亜急性硬化性全脳炎 | 1 人 |
| ・ビュルガー病 | 22 人 | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群 | 3 人 |
| ・天疱瘡 | 25 人 | ・慢性血栓性肺高血圧症 | 4 人 |
| ・脊髄小脳変性症 | 49 人 | ・ライソゾーム病 | 5 人 |
| ・クローン病 | 168 人 | ・副腎白質ジストロフィー | 0 人 |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎 | 7 人 | ・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 2 人 |
| ・悪性関節リウマチ | 22 人 | ・脊髄性筋萎縮症 | 2 人 |
| ・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病) | 150 人 | ・球脊髄性筋萎縮症 | 5 人 |
| ・アミロイドーシス | 18 人 | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 | 17 人 |
| ・後縦靭帯骨化症 | 111 人 | ・肥大型心筋症 | 19 人 |
| ・ハンチントン病 | 3 人 | ・拘束型心筋症 | 1 人 |
| ・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症) | 32 人 | ・ミトコンドリア病 | 5 人 |
| ・ウェゲナー肉芽腫症 | 11 人 | ・リンパ管筋腫症(LAM) | 2 人 |
| ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症 | 36 人 | ・重症多形滲出性紅斑(急性期) | 2 人 |
| ・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガ症候群) | 33 人 | ・黄色靭帯骨化症 | 12 人 |
| ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型) | 6 人 | 間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常 症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異 常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能 低下症) | 102 人 |

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|-----------------------------|-------------------|
| ・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料 | ・ ハイリスク妊娠管理加算 |
| ・ 歯科外来診療環境体制加算 | ・ ハイリスク分娩管理加算 |
| ・ 歯科診療特別対応連携加算 | ・ 退院調整加算 |
| ・ 特定機能病院入院基本料 (一般病棟) | ・ 救急搬送患者地域連携紹介加算 |
| ・ 特定機能病院入院基本料 (精神病棟) | ・ 病棟薬剤業務実施加算 |
| ・ 臨床研修病院入院診療加算 (医科) | ・ データ提出加算 |
| ・ 臨床研修病院入院診療加算 (歯科) | ・ 地域歯科診療支援病院入院加算 |
| ・ 救急医療管理加算 | ・ 特定集中治療室管理料 |
| ・ 超急性期脳卒中加算 | ・ 総合周産期特定集中治療室管理料 |
| ・ 妊産婦緊急搬送入院加算 | 1. 胎児・母体集中治療室管理料 |
| ・ 診療録管理体制加算 | 2. 新生児集中治療室管理料 |
| ・ 急性期看護補助体制加算 | ・ 新生児治療回復室入院医療管理料 |
| ・ 看護補助加算 2 (50対1) | ・ 小児入院医療管理料 2 |
| ・ 療養環境加算 | ・ |
| ・ 重症者等療養環境特別加算 | ・ |
| ・ 無菌治療室管理加算 | ・ |
| ・ 緩和ケア診療加算 | ・ |
| ・ 精神科応急入院施設管理加算 | ・ |
| ・ 精神病棟入院時医学管理加算 | ・ |
| ・ 精神科身体合併症管理加算 | ・ |
| ・ がん診療連携拠点病院加算 | ・ |
| ・ 栄養サポートチーム加算 | ・ |
| ・ 医療安全対策加算 | ・ |
| ・ 感染防止対策加算 (感染防止対策地域連携加算あり) | ・ |
| ・ 患者サポート体制充実加算 | ・ |
| ・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 | ・ |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|-------------------------------|----------------------------|
| ・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算) | ・胎児心エコー法 |
| ・高度難聴指導管理料 | ・ヘッドアップティルト試験 |
| ・糖尿病合併症管理料 | ・人工臍臓 |
| ・がん性疼痛緩和指導管理料 | ・皮下連続式グルコース測定 |
| ・がん患者指導管理料 | ・長期継続頭蓋内脳波検査 |
| ・外来緩和ケア管理料 | ・神経学的検査 |
| ・糖尿病透析予防指導管理料 | ・補聴器適合検査 |
| ・院内トリアージ実施料 | ・小児食物アレルギー負荷検査 |
| ・外来リハビリテーション診療料 | ・内服・点滴誘発試験 |
| ・外来放射線照射診療料 | ・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。) |
| ・ニコチン依存症管理料 | ・画像診断管理加算2 |
| ・がん治療連携計画策定料 | ・遠隔画像診断 |
| ・がん治療連携管理料 | ・CT撮影及びMRI撮影 |
| ・肝炎インターフェロン治療計画料 | ・冠動脈CT撮影加算 |
| ・薬剤管理指導料 | ・大腸CT撮影加算 |
| ・医療機器安全管理料1 | ・心臓MRI撮影加算 |
| ・医療機器安全管理料2 | ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算 |
| ・医療機器安全管理料(歯科) | ・外来化学療法加算1 |
| ・歯科治療総合医療管理料 | ・外来化学療法加算2 |
| ・持続血糖測定器加算 | ・無菌製剤処理料 |
| ・造血器腫瘍遺伝子検査 | ・心大血管疾患リハビリテーション料(I) |
| ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) | ・脳血管疾患等リハビリテーション料(I) |
| ・検体検査管理加算(IV) | ・運動器リハビリテーション料(I) |
| ・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 | ・呼吸器リハビリテーション料(I) |
| ・植込型心電図検査 | ・がん患者リハビリテーション料 |
| ・時間内歩行試験 | ・歯科口腔リハビリテーション料2 |
| ・精神科作業療法 | ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 |

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|--|
| ・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。） | ・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術 |
| ・医療保護入院等診療料 | ・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 |
| ・エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの） | ・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び ・経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの） |
| ・エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの） | ・両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器移植術及び両 ・室ペースメーキング機能付き植込型除細動器交換術 |
| ・透析液水質確保加算 | ・大動脈バルーンポンピング法（IABP法） |
| ・一酸化窒素吸入療法 | ・経皮的動脈遮断術 |
| ・CAD/CAM冠 | ・ダメージコントロール手術 |
| ・歯科技工加算 | ・腹腔鏡下肝切除術 |
| ・皮膚悪性腫瘍切除術（悪性黒色腫センチネルリンパ ・節加算を算定する場合に限る。） | ・生体部分肝移植術 |
| ・組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房 ・（再建手術）の場合に限る。） | ・同種死体肝移植術 |
| ・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移 ・植術に限る。） | ・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術 |
| ・腫瘍脊椎骨全摘術 | ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 |
| ・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及 ・び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄 ・刺激装置交換術 | ・腹腔鏡下小切開副腎摘出術 |
| ・羊膜移植術 | ・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 |
| ・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プ ・レートのあるもの）） | ・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘 ・出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術 |
| ・網膜再建術 | ・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの） |
| ・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込 ・型骨導補聴器交換術 | ・同種死体腎移植術 |
| ・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術） | ・生体腎移植術 |
| ・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科 ・診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動 ・を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限 ・る。） | ・膀胱水圧拡張術 |
| ・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネ ・ルリンパ節加算2 | ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 |
| ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除 ・後） | ・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術 |
| ・経皮的冠動脈形成術 | ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。） |
| ・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） | ・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯 ・科点数表第2章第9部通則4を含む。）に掲げる手 ・術 |
| ・経皮的冠動脈ステント留置術 | ・胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造 ・設術を含む。） |
| ・経皮的中隔心筋焼灼術 | ・輸血管管理料II |
| ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 | ・ |
| ・内視鏡手術用支援機器加算 | ・ |

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|-------------------------|---------|
| ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算 | ・ |
| ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術 | ・ |
| ・麻酔管理料（Ⅰ） | ・ |
| ・麻酔管理料（Ⅱ） | ・ |
| ・放射線治療専任加算 | ・ |
| ・外来放射線治療加算 | ・ |
| ・高エネルギー放射線治療 | ・ |
| ・強度変調放射線治療（IMRT） | ・ |
| ・画像誘導放射線治療加算（IGRT） | ・ |
| ・体外照射呼吸性移動対策加算 | ・ |
| ・定位放射線治療 | ・ |
| ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算 | ・ |
| ・保険医療機関間の連携による病理診断 | ・ |
| ・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製 | ・ |
| ・病理診断管理加算 | ・ |
| ・クラウン・ブリッジ維持管理料 | ・ |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|------------------|----------|
| ・ 羊膜移植術 | ・ |
| ・ インプラント義歯 | ・ |
| ・ 腫瘍脊椎骨全摘術 | ・ |
| ・ 超音波骨折治療法 | ・ |
| ・ 経皮的骨形成術（骨セメント） | ・ |
| ・ エキシマレーザー冠動脈形成術 | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

| | |
|-------------------------------------|--|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | ① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 1ヶ月に7回程度 |
| 剖 検 の 状 況 | 剖検症例数 45 例 / 剖検率 14.5 % |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|-------|-----------|------------|------------|
| 呼吸器悪性腫瘍の微小環境の特性を標的とした新規制御法の開発 | 矢野 聖二 | がん進展制御研究所 | ¥9,500,000 | 補委 日本学術振興会 |
| HGF/cMET axisとHB-EGFを標的とした胃癌標的治療法の開発 | 安本 和生 | がん進展制御研究所 | ¥1,100,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 肺がんの転移と分子標的薬耐性を克服する統合的研究 | 矢野 聖二 | がん進展制御研究所 | ¥2,300,000 | 補委 日本学術振興会 |
| EGFR変異肺癌のBIM遺伝子多型に起因するEGFR-TKI耐性克服治療の開発 | 竹内 伸司 | がん進展制御研究所 | ¥2,200,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 悪性神経内分泌腫瘍に対する分子生物学的・組織学的特徴に基づいた集学的内照射療法 | 絹谷 清剛 | 医学系 | ¥3,400,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 霊長類に特異的なニューロン新生と脳再生療法の研究開発 | 山嶋 哲盛 | 医学系 | ¥2,700,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 緑内障性視神経障害進行の活動部位仮説の立証と乳頭出血、予後予測に関する研究 | 杉山 和久 | 医学系 | ¥500,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 過栄養状態の肝臓が産生するタンパクと生活習慣病の関連 | 金子 周一 | 医学系 | ¥8,400,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 蛍光イメージングを用いた骨軟部腫瘍の進展機序解明と治療戦略 | 土屋 弘行 | 医学系 | ¥2,900,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 前立腺癌の増殖・再燃に関わる分子機序の解明と再燃に対する総合的治療戦略の構築 | 並木 幹夫 | 医学系 | ¥1,000,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 卵巣チョコレート嚢腫上皮の不死化、癌化による多段階発癌モデルの構築と分子標的探索 | 京 哲 | 医学系 | ¥3,000,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 内因性免疫によるEBV感染制御機構と上咽頭癌発癌機構に関する研究 | 吉崎 智一 | 医学系 | ¥2,100,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 肺癌におけるcMetとTopoisomerase Iの関連 | 笠原 寿郎 | 医学系 | ¥900,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 遺伝子導入による間葉系幹細胞の肝修復再生能プログラミングと肝再生療法への応用 | 酒井 佳夫 | 医学系 | ¥1,100,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 自動吻合器を用いたロボット支援下心拍動下左室心尖大動脈バイパスの基礎的研究 | 渡邊 剛 | 医学系 | ¥800,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 悪性グリオーマの浸潤シグナルを狙った分子標的療法の確立 | 中田 光俊 | 医学系 | ¥600,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 腫瘍増殖型ウイルスを用いた血中循環がん細胞の検出と卵巣癌再発予測への応用 | 京 哲 | 医学系 | ¥800,000 | 補委 日本学術振興会 |
| ミセル化シスプラチン開発による新規頭頸部癌治療コンセプト | 吉崎 智一 | 医学系 | ¥450,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 口腔扁平上皮癌の浸潤・転移における腫瘍間質の役割 | 川尻 秀一 | 医学系 | ¥800,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 上皮間葉移行は側頭骨原発扁平上皮癌の予後を決定するか | 杉本 寿史 | 医学系 | ¥700,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 再生不良性貧血におけるゲノム異常を利用した造血抑制因子の同定 | 中尾 眞二 | 医学系 | ¥3,800,000 | 補委 日本学術振興会 |
| アジア系人種における糖尿病性腎症の予後調査と予後規定因子の国際比較研究 | 和田 隆志 | 医学系 | ¥1,100,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 意識および記憶のモニタリング方法の開発 | 山本 健 | 医学系 | ¥1,500,000 | 補委 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|--|--------|------------------|------------|----|---------|
| 悪性骨腫瘍に対する凍結免疫療法の確立 | 土屋 弘行 | 医学系 | ¥1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 統合失調症における大脳基底核出力ニューロンの死後脳を用いた解析 | 橋本 隆紀 | 医学系 | ¥950,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 神経細胞死におけるHsp70とその関連蛋白の意義 | 三辺 義雄 | 医学系 | ¥100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 高機能自閉症成人例におけるオキシトシンの効果と生物学的背景の検討 | 三辺 義雄 | 医学系 | ¥2,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 肝幹細胞由来肝癌の画像所見と病理・病態の解析 | 小坂 一斗 | 医学系 | ¥1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| GSK3βを分子標的とする悪性グリオーマ治療の基礎基盤の構築 | 宮下 勝吉 | 医学系 | ¥1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 統合失調症におけるKv9.3カリウムチャンネルサブユニット発現変化の脳内分布 | 橋本 隆紀 | 医学系 | ¥2,700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 統合失調症の病態におけるKv9.3カリウムチャンネルサブユニットの重要性について | 橋本 隆紀 | 医学系 | ¥4,950,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| シミュレータの遠隔操作による小児救急医学教育の効果について | 太田 邦雄 | 医学系 | ¥1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 重症筋無力症の骨格筋細胞内反応と病態に関する研究 | 岩佐 和夫 | 医学系 | ¥1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 自然免疫応答の賦活化を基盤とした膵癌新規薬物併用療法の開発 | 太田 哲生 | 医学系 | ¥1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 浸潤性脳腫瘍が頭頂葉-前頭葉高次機能ネットワーク再構築に及ぼす影響の検討 | 林 裕 | 医学系 | ¥1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 水疱性角膜症に対する新しい角膜内皮移植術(DMEK)の確立と、術後視機能の解析 | 小林 顕 | 医学系 | ¥1,600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| MMP-3の歯髄炎での消炎効果と組織再生のメカニズムの解明 | 中村 博幸 | 医学系 | ¥1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 新規蛋白尿惹起因子の同定と臨床検査診断法への応用 | 和田 隆志 | 医学系 | ¥1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| シグナルパスウェイ構成蛋白の発現・変異解析による造血抑制性サイトカインの同定 | 中尾 眞二 | 医学系 | ¥1,700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 非コードDNA-男性不妊症をひき起こすAlu配列に関連した遺伝子異常を検索する- | 並木 幹夫 | 医学系 | ¥1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| オートファジー細胞死誘導による頭頸部癌新規治療法の開発 | 辻 亮 | 医学系 | ¥900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 移植後閉塞性細気管支炎に対するc-kitの役割 | 早稲田 優子 | 医学系 | ¥1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 骨肉腫の新たな病態解明を目指したがん幹細胞の同定とその特性の解析 | 武内 章彦 | 医学系 | ¥800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 全身性強皮症患者および線維化モデルマウスにおける制御性B細胞の解析 | 竹原 和彦 | 医学系 | ¥800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 食塩感受性高血圧の成因に関するエピジェネティクス解析 | 武田 仁勇 | 医学系 | ¥1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 自閉症スペクトラム障害と双極性障害の類似症状に着目した脳科学的研究 | 棟居 俊夫 | 子どものこころの発達研究センター | ¥600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| オキシトシン療法による自閉症スペクトラム障害者の自己観の変化に関する脳科学的研究 | 棟居 俊夫 | 子どものこころの発達研究センター | ¥5,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 乳癌に対するHDAC阻害剤を用いた治療の開発に向けた基礎・臨床研究 | 井口 雅史 | 附属病院 | ¥400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 子宮体癌におけるWilm's腫瘍遺伝子と細胞増殖及び血管新生での分子生物学的解明 | 土肥 聡 | 附属病院 | ¥500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|--|-------|------|------------|----|---------|
| 副作用マネジメントと毒性回避のための臨床薬物動態研究 | 崔 吉道 | 附属病院 | ¥600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 肝癌幹細胞発生に関わるゲノム異常の網羅的解析 | 山下 太郎 | 附属病院 | ¥800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ゼブラフィッシュを用いた遺伝性不整脈の病態解明と治療法の確立 | 蒲生 忠継 | 附属病院 | ¥600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| IgG4関連疾患の病態解明に向けてT細胞機能異常に基づいたモデルマウスの確立 | 川野 充弘 | 附属病院 | ¥900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| C-11メチオニンPETによる虚血性心疾患のリスク層別化のための新しい画像診断 | 松尾 信郎 | 附属病院 | ¥500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 虚血心筋障害、リモデリングにおける心筋間質の病態と血管新生の画像化に関する研究 | 瀧 淳一 | 附属病院 | ¥900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 肝細胞癌における背景肝の線維化ならびに抗癌治療誘発EMT抑制に関する研究 | 田島 秀浩 | 附属病院 | ¥800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 胚性幹細胞研究に基づく肝癌幹細胞増殖機構の解明 | 高村 博之 | 附属病院 | ¥800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 膵癌のMesopancreasへの進展に対する臓器発生と筋膜の構造からみた戦略 | 北川 裕久 | 附属病院 | ¥500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 新型SPY-Qシステム心筋血流評価による交感神経刺激心筋保護法の研究 | 富田 重之 | 附属病院 | ¥150,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 核内受容体・NF-κBクロストークを標的とした去勢抵抗性前立腺癌に対する治療戦略 | 小中 弘之 | 附属病院 | ¥400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 癌幹細胞を標的とした婦人科癌治療ならびに腫瘍細胞イメージングシステムの構築 | 高倉 正博 | 附属病院 | ¥700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 癌幹細胞理論にもとづく上咽頭癌発癌機構の解明 | 室野 重之 | 附属病院 | ¥1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ラット専用光干渉断層計による緑内障関連モデルにおける網膜各層の構造的変化の解析 | 東出 朋巳 | 附属病院 | ¥1,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 心停止傷病者の救急不搬送基準に関する研究 | 後藤 由和 | 附属病院 | ¥800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 医師の説明義務違反に影響を及ぼす因子の定量的解析及びその臨床応用 | 越後 純子 | 附属病院 | ¥900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 統合失調症患者に対する指先触圧覚認知P300測定システムを用いた触・痛覚の研究 | 長澤 達也 | 附属病院 | ¥200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 遺伝子発現プロファイルを用いた肝細胞癌治療における新規バイオマーカーの同定 | 砂子阪 肇 | 附属病院 | ¥800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 新規ケモカイン製剤の免疫賦活効果による肝癌の再発抑制効果をめざした免疫療法の開発 | 荒井 邦明 | 附属病院 | ¥900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 多発性嚢胞腎発症機序の解明；モデルマウスを用いたTRPP2の局在異常からの解析 | 山田 和徳 | 附属病院 | ¥700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 各種心肺停止時の心肺蘇生に対する内服β遮断薬の影響 | 栗田 昭英 | 附属病院 | ¥900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 家族性高コレステロール血症の新規原因遺伝子が臨床像と生命予後に与える影響 | 川尻 剛照 | 附属病院 | ¥1,600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 腎疾患の腎局所及び全身免疫応答における骨髄由来免疫抑制性細胞の意義 | 岩田 恭宜 | 附属病院 | ¥1,525,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 免疫調整遺伝子多型解析に基づくテラーメード型同種造血幹細胞移植の確立 | 高見 昭良 | 附属病院 | ¥1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|---|--------|------|------------|--------|---------|
| E B V 関連血球貪食性リンパ組織球症における E B V 感染 T 細胞の解析と病態解明 | 和田 泰三 | 附属病院 | ¥1,200,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 慢性移植片対宿主病の発症に関与する多様な細胞群の同定とその制御法の確立 | 西村 良成 | 附属病院 | ¥1,600,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| リン酸ジエステル加水分解酵素 (P D E) 阻害剤は川崎病冠動脈瘤形成を抑制するか? | 斉藤 剛克 | 附属病院 | ¥800,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 皮膚免疫疾患における B 細胞抑制性受容体 C D 2 2 / 7 2 の制御機構 | 濱口 儒人 | 附属病院 | ¥800,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 多様化する血管内治療デバイスに対応した磁気共鳴画像による塞栓脳動脈瘤破裂徴候検出 | 植田 文明 | 附属病院 | ¥2,000,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| ステントグラフト内挿術を支援する大動脈フィルターデバイスの開発に関する研究 | 眞田 順一郎 | 附属病院 | ¥800,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 呼吸移動性腫瘍に対する呼吸停止下回転型強度変調照射法の開発と臨床応用への研究 | 高仲 強 | 附属病院 | ¥750,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 肺癌に対する体外肺切除における、気管支創傷治療へのキトサンナノ繊維シートの効果 | 松本 勲 | 附属病院 | ¥800,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 腫瘍脊椎骨全摘術後の骨欠損に対する自己脂肪由来幹細胞を用いた骨再生 | 出村 諭 | 附属病院 | ¥1,500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| テロメア動態と上皮間葉移行機序を応用した血管内浮遊癌細胞に対する治療戦略 | 北川 育秀 | 附属病院 | ¥800,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 男性不妊症における精巢 s m a l l R N A 制御機構に関する研究 | 前田 雄司 | 附属病院 | ¥800,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 癌間質線維芽細胞を標的とした新たな子宮内膜癌治療戦略の開発 | 水本 泰成 | 附属病院 | ¥1,200,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 子宮内膜癌幹細胞の解析と難治性癌治療法開発への応用 | 中村 充宏 | 附属病院 | ¥1,100,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 我が国と欧米の中絶医療実態の比較研究 | 打出 喜義 | 附属病院 | ¥300,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 細胞競合現象に基づく上咽頭癌発癌機構の解析と新規治療法の開発 | 近藤 悟 | 附属病院 | ¥4,300,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| d U T P a s e と w n t シグナルを標的とした肝細胞癌新規治療薬の開発 | 鷹取 元 | 附属病院 | ¥1,000,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| B M I 変動による薬物動態個人間変動の解明と臨床応用 | 澤本 一樹 | 附属病院 | ¥700,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 抗 m i c r o R N A 1 2 2 療法を基軸とした新規抗 C 型肝炎ウイルス治療法の開発 | 島上 哲朗 | 附属病院 | ¥1,000,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| ケモカインによる関節炎の制御 | 藤井 博 | 附属病院 | ¥1,700,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 皮膚虚血再灌流傷害マウスモデルを用いた臨床的褥瘡予防治療法の検討・開発 | 齋藤 佑希 | 附属病院 | ¥1,500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 甲状腺全摘出後の残存甲状腺組織の検出 | 萱野 大樹 | 附属病院 | ¥500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 肝細胞癌の G d - E O B - D T P A 造影 M R I による s u b t y p e 分類 | 北尾 梓 | 附属病院 | ¥1,000,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 前立腺癌に対する小線源治療併用強度変調放射線治療における適切な臓器線量制約の確立 | 熊野 智康 | 附属病院 | ¥400,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 細胞修復阻害と腫瘍内酸化を用いた神経芽腫内照射療法の抗腫瘍効果増強 | 若林 大志 | 附属病院 | ¥1,600,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 胃癌腹膜播種の微小環境における上皮間葉転換の解明と治療標的の意義 | 木下 淳 | 附属病院 | ¥1,100,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|--|--------|------|------------|----|---------|
| I g G 4 関連疾患における耳鼻咽喉科領域からの病態解析アプローチ | 中西 清香 | 附属病院 | ¥1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 口腔扁平上皮癌に対するAMPK活性化薬剤の抗腫瘍効果に関する実験的研究 | 加藤 広祿 | 附属病院 | ¥1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 口腔扁平上皮癌におけるClaudin機能発現が浸潤・転移に及ぼす影響 | 吉澤 邦夫 | 附属病院 | ¥1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 口腔扁平上皮癌の浸潤・転移に対する血管新生阻害剤および線維芽細胞増殖抑制剤の効果 | 野口 夏代 | 附属病院 | ¥1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 病態マーカーとしてのin situグルタチオン化タンパク質検出法の確立と応用 | 戸田 重誠 | 附属病院 | ¥2,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 悪性骨腫瘍に対する液体窒素処理と樹状細胞療法の併用療法 | 西田 英司 | 附属病院 | ¥3,800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 心筋症における不整脈関連遺伝子の検索と機能解析および薬物的・非薬物的介入 | 井野 秀一 | 附属病院 | ¥1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 地域医療における軽症糖尿病患者に対する在宅健康サービスの継続研究 | 米田 隆 | 附属病院 | ¥1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 細胞傷害性T細胞レセプターを用いた肝細胞癌免疫治療に関する基礎的検討 | 水腰 英四郎 | 附属病院 | ¥1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 脂肪組織由来間質細胞による心筋再生医療の作用機序に関する研究 | 高村 雅之 | 附属病院 | ¥1,700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 全身性強皮症におけるregulatory B細胞の機能解析および新規治療法の開発 | 松下 貴史 | 附属病院 | ¥2,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 酸化ストレスが精神疾患病態生理に果たす機能的重要性の解明；うつ病の敵か、味方か？ | 戸田 重誠 | 附属病院 | ¥1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ミクロ粒子の経動脈的注入における粒子と溶出薬剤の動態とその制御に関する実験的研究 | 香田 渉 | 附属病院 | ¥1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 肝動脈化学塞栓術におけるナノミセルを用いた薬剤導入と集積方法に関する研究 | 南 哲弥 | 附属病院 | ¥1,270,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 食道癌放射線耐性機序解明とHDAC阻害薬による放射線耐性克服の基礎的検討 | 二宮 致 | 附属病院 | ¥1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 胃癌腹膜播種における腹腔内マクロファージの機能解析と造腫瘍性についての実験的検討 | 伏田 幸夫 | 附属病院 | ¥1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 膵癌放射線治療における線維化ならびに抗癌治療誘発EMT抑制に関する研究 | 中川原 寿俊 | 附属病院 | ¥700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 難治性良性脳腫瘍に対するアクアポリン1を標的とした血管新生抑制の治療戦略 | 林 康彦 | 附属病院 | ¥2,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| フラボノイドを用いた前立腺癌再燃の予防とドセタキセル感受性増強への応用 | 溝上 敦 | 附属病院 | ¥1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 前立腺癌の再燃およびドセタキセル耐性獲得メカニズムにおける微小環境の影響 | 角野 佳史 | 附属病院 | ¥1,600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 実験的緑内障濾過手術におけるハニカムフィルムの有用性 | 奥田 徹彦 | 附属病院 | ¥1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| DICにおける炎症と凝固の相互作用遮断と血管作動性物質 | 朝倉 英策 | 附属病院 | ¥1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| RAGEが水頭症発生に及ぼす影響に関する研究 | 喜多 大輔 | 附属病院 | ¥1,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ヨード担持インプラントの生体内減衰と生体親和性の評価 | 西田 英司 | 附属病院 | ¥800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|--|--------|------|-------------|----|---------|
| 遺伝子マスタレーキエレーター SATB1の頭頸部癌遺伝子発現制御機構 | 近藤 悟 | 附属病院 | ¥400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 肝癌に対する樹状細胞ワクチン療法の開発 | 北原 征明 | 附属病院 | ¥1,600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ゼブラフィッシュを用いた肥大型心筋症の発症、進展機序の解明 | 寶達 明彦 | 附属病院 | ¥500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 肥満による慢性炎症が急性心筋梗塞に与えるインパクト：病態解明から治療への応用 | 大辻 浩 | 附属病院 | ¥1,800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 臓器特異的インスリン抵抗性評価系の確立とその規定因子の研究 | 竹下 有美枝 | 附属病院 | ¥1,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 皮膚筋炎/多発性筋炎の新規自己抗体の同定 | 吉村 紫 | 附属病院 | ¥900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 正常及び加齢・認知症における ω -3系不飽和脂肪酸の生体内分子イメージングの検討 | 稲木 杏吏 | 附属病院 | ¥800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 経血管インターベンションによる血管透過性の制御を介する抗腫瘍療法の開発 | 吉田 耕太郎 | 附属病院 | ¥1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| グリオーマ幹細胞に対するNotch阻害剤の効果解析と前臨床試験 | 田中 慎吾 | 附属病院 | ¥1,900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ヨード担持チタン製抗菌インプラントの骨伝導能・骨誘導能の解析 | 加藤 仁志 | 附属病院 | ¥1,800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 腫瘍血管正常化に基づく頭頸部癌新規治療戦略 | 遠藤 一平 | 附属病院 | ¥600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 口腔扁平上皮癌の浸潤・転移における細胞間接着分子の役割 | 北原 寛子 | 附属病院 | ¥1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 頭頸部癌患者に対するアミノ酸系消化態栄養剤の口腔粘膜炎症予防効果に関する検討 | 浅井 泰詞 | 附属病院 | ¥400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 水腎症がイリノテカンの発現副作用に及ぼす影響 | 橋本 千明 | 附属病院 | ¥400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 最大エントロピー法を応用した聴性脳幹反応による乳幼児聴覚閾値推定法の開発 | 大江 宏康 | 附属病院 | ¥500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 内側広筋の優先的活動に関するCKC運動の比較 | 楠戸 翔 | 附属病院 | ¥200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 血液がんにおける異常血液型迅速診断法の確立：血液型A・B抗原とI抗原の運動性証明 | 佐藤 英洋 | 附属病院 | ¥600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| C. difficileの病原性および予後に関する検討 | 竹森 優喜子 | 附属病院 | ¥600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 人工内耳装用者の語音聴取における学習曲線に関する研究 | 永井 理紗 | 附属病院 | ¥600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| センチネルリンパ節シンチグラフィのSPECT/CT像の吸収・散乱補正の最適化 | 米山 寛人 | 附属病院 | ¥300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 四次元モデリングシュミレーションによるMRI静音化システムの開発 | 濱口 隆史 | 附属病院 | ¥600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究 | 山田 正仁 | 医学系 | ¥59,539,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| C型肝炎から発がんに至る病態進展の解明とその制御に関する研究 | 金子 周一 | 医学系 | ¥18,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| HBV cccDNAの制御と排除を目指す新規免疫治療薬の開発 | 金子 周一 | 医学系 | ¥76,924,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 肝硬変に対する脂肪組織由来間質細胞を用いた肝再生療法実用化研究 | 金子 周一 | 医学系 | ¥25,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 糖尿病性腎症ならびに腎硬化症の診療水準向上と重症化防止に向けた調査・研究 | 和田 隆志 | 医学系 | ¥18,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究 | 土屋 弘行 | 医学系 | ¥500,000 | 補委 | 厚生労働省 |

| | | | | | |
|---|-------|-----------|-------------|----|-------|
| 過疎地域等における急性心筋梗塞の急性期治療の体制整備に関する研究 | 山岸 正和 | 医学系 | ¥1,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 慢性腎臓病の進行を促進する薬剤等による腎障害の早期診断法と治療法の開発 | 和田 隆志 | 医学系 | ¥1,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 重篤小児集約拠点にかかる小児救急医療体制のあり方に関する研究 | 太田 邦雄 | 医学系 | ¥400,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 特発性心筋症に関する調査研究 | 山岸 正和 | 医学系 | ¥1,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 視覚系の稀少難治性疾患群に関する症例データベース構築 | 杉山 和久 | 医学系 | ¥2,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 副腎ホルモン産生異常に関する調査研究 | 武田 仁勇 | 医学系 | ¥1,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 原発性免疫不全症候群に関する調査研究 | 谷内江昭宏 | 医学系 | ¥2,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 難治性血管炎に関する調査研究 | 和田 隆志 | 医学系 | ¥800,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| かかりつけ医/非腎臓専門医と腎臓専門医の協力を促進する慢性腎臓病患者の重症化予防のための診療システムの有用性を検討する研究 | 和田 隆志 | 医学系 | ¥400,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 肝硬変に対する細胞治療法の臨床的確立とそのメカニズムの解明 | 酒井 佳夫 | 医学系 | ¥2,500,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| N0口腔癌における選択的頸部郭清術とセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の無作為化比較試験 | 吉崎 智一 | 医学系 | ¥400,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 大規模ゲノム疫学共同研究による認知症の危険因子および防御因子の解明 | 山田 正仁 | 医学系 | ¥4,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| アミロイドーシスに関する調査研究 | 山田 正仁 | 医学系 | ¥1,600,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究 | 山田 正仁 | 医学系 | ¥1,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 特発性造血障害に関する調査研究 | 中尾 眞二 | 医学系 | ¥2,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 肝移植後C型肝炎に対する治療法の標準化を目指した臨床的ならびに基礎的研究 | 太田 哲生 | 医学系 | ¥1,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 自己炎症疾患とその類縁疾患に対する新規診療基盤の確立 | 谷内江昭宏 | 医学系 | ¥1,500,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 創薬と新規治療法開発に資するヒト肝細胞キメラマウスを用いた肝炎ウイルス制御に関する研究 | 金子 周一 | 医学系 | ¥2,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 心不全におけるCa ²⁺ 過負荷の分子病態学的意義とその内在的防御因子の解明 | 山岸 正和 | 医学系 | ¥1,330,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| BIM遺伝子多型に起因するEGFR変異肺がんのEGFRチロシンキナーゼ阻害薬耐性をポリノスタット併用で克服する研究 | 矢野 聖二 | がん進展制御研究所 | ¥40,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| C型肝炎ウイルス感染特異的な長鎖ノンコーディングRNAの探索 | 島上 哲朗 | 附属病院 | ¥8,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 肝炎に関する全国規模のデータベースを用いた肝炎治療の評価及び肝炎医療の向上に資する研究 | 島上 哲朗 | 附属病院 | ¥2,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 急性感染も含めた肝炎ウイルス感染状況・長期経過と治療導入策に関する研究 | 島上 哲朗 | 附属病院 | ¥1,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 慢性ウイルス性肝疾患患者の情報収集の在り方等に関する研究 | 島上 哲朗 | 附属病院 | ¥1,500,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| IgG4関連疾患に関する調査研究 | 川野 充弘 | 附属病院 | ¥1,300,000 | 補委 | 厚生労働省 |

| | | | | | |
|---|--------|------|-------------|--------|-------|
| 遺伝性不整脈疾患の遺伝子基盤に基づいた病態解明と診断・治療法の開発に関する研究 | 林 研至 | 附属病院 | ¥1,500,000 | 補 委 | 厚生労働省 |
| 移植細胞源を異にする非血縁造血細胞移植の組織適合性に基づく成績向上と移植選択アルゴリズムの確立に関する研究 | 高見 昭良 | 附属病院 | ¥900,000 | 補 委 | 厚生労働省 |
| 難治性造血器腫瘍に対する造血幹細胞移植の治療成績向上を目指した未承認・適応外薬の患部伝す確率に関する研究 | 高見 昭良 | 附属病院 | ¥300,000 | 補 委 | 厚生労働省 |
| 腹膜偽粘液腫の本邦における発生頻度・病態の解明・治療法の開発 | 宮本 謙一 | 附属病院 | ¥300,000 | 補 委 | 厚生労働省 |
| 腹膜偽粘液腫の本邦における発生頻度・病態の解明・治療法の開発 | 崔 吉道 | 附属病院 | ¥400,000 | 補 委 | 厚生労働省 |
| B型肝炎の新規治療薬を開発するための宿主の自然免疫系の解析に関する研究 | 水腰 英四郎 | 附属病院 | ¥15,800,000 | 補 委 | 厚生労働省 |
| 自己炎症疾患とその類縁疾患に対する新規診療基盤の確立 | 手良向 聡 | 附属病院 | ¥1,500,000 | 補 委 | 厚生労働省 |
| 腫瘍播種を伴う胃癌に対するパクリタキセル腹腔内投与併用療法の有用性を評価する第Ⅲ相臨床試験 | 伏田 幸夫 | 附属病院 | ¥300,000 | 補 委 | 厚生労働省 |

計 ¥493,538,000

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- (注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名 | 発表者の所属 | 題名 | 雑誌名 |
|----|--|--|--|---|
| 1 | 中嶋 憲一 | 金沢大学附属病院核医学診療科 | Improved quantification of small hearts for gated myocardial perfusion imaging | Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2013; 40(8):1163-70. |
| 2 | 若林 大志 | 金沢大学附属病院核医学診療科 | Bone scintigraphy as a new imaging biomarker: the relationship between bone scan index and bone metabolic markers in prostate cancer patients with bone metastases. | Ann Nucl Med. 2013;27(9):802-7. |
| 3 | 松尾 信郎 | 金沢大学附属病院核医学診療科 | Diagnostic utility of 123I-BMIPP imaging in patients with Takotsubo cardiomyopathy | J Cardiol. 2013 Dec 9. pii: S0914-5087(13)00354-7 |
| 4 | 中嶋 憲一 | 金沢大学附属病院核医学診療科 | Metabolic syndrome is not a predictor for cardiovascular events in Japanese patients with diabetes mellitus asymptomatic for coronary artery disease: a retrospective analysis of the J-ACCESS-2 study | J Nucl Cardiol. 2013;20(2):234-41 |
| 5 | 若林 大志 | 金沢大学附属病院核医学診療科 | Prognostic values of initial responses to low-dose (131)I-MIBG therapy in patients with malignant pheochromocytoma and paraganglioma. | Ann Nucl Med. 2013;27(9):839-46. |
| 6 | 中嶋 憲一 | 金沢大学附属病院核医学診療科 | A prediction model for 5-year cardiac mortality in patients with chronic heart failure using 123I-metaiodobenzylguanidine imaging. | Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2014 Mar 25. |
| 7 | 中嶋 憲一 | 金沢大学附属病院核医学診療科 | Enhanced diagnostic accuracy for quantitative bone scan using an artificial neural network system: a Japanese multi-center database project | EJNMMI Res. 2013;3(1):83. |
| 8 | 三輪 真嗣 | 金沢大学附属病院整形外科 | Prognostic value of radiological response to chemotherapy in patients with osteosarcoma | PLoS One. 2013 Jul 29;8(7):e70015. |
| 9 | 中瀬 順介 | 金沢大学附属病院整形外科 | Whole body muscle activity during the FIFA 11+ program evaluated by positron emission tomography. | PLoS One. 2013 Sep 16;8(9):e73898 |
| 10 | 高松 博幸 | 金沢大学附属病院整形外科 | Post-transplantation consolidation and maintenance therapy with lenalidomide for Japanese patients with multiple myeloma. | Anticancer Res. 2013;33(12):5681-5. |
| 11 | 川野 充弘 | 金沢大学附属病院リウマチ・膠原病内科 | Primary Sjögren's syndrome with chronic tubulointerstitial nephritis and lymphadenopathy mimicking IgG4-related disease. | Mod Rheumatol. 2013 Oct 21. |
| 12 | Kobayashi A, Yokogawa H, Yamazaki N, Masaki T, Sugiyama K | Department of Ophthalmology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science, Kanazawa, Japan | In vivo laser confocal microscopy after Descemet's membrane endothelial keratoplasty. | Ophthalmology. 120(5):923-930, 2013 |
| 13 | Kobayashi A, Yokogawa H, Yamazaki N, Tokoro M, Sugiyama K | Department of Ophthalmology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science, Kanazawa, Japan | In vivo laser confocal microscopy findings of radial keratoneuritis in patients with early stage acanthamoeba keratitis. | Ophthalmology. 120(7):1348-1353, 2013 |
| 14 | Yokogawa H, Kobayashi A, Yamazaki N, Sugiyama K | Department of Ophthalmology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science, Kanazawa, Japan | Descemet's stripping and non-Descemet's stripping automated endothelial keratoplasty for microcornea using 6.0 mm donor grafts. | Clinical Ophthalmology 7:1951-1956, 2013 |
| 15 | Kawaguchi C, Nakatani Y, Ohkubo S, Higashide T, Sugiyama K | Department of Ophthalmology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science, Kanazawa, Japan | Structural and functional assessment by hemispheric asymmetry testing of the macular region in preperimetric glaucoma. | Jpn J Ophthalmol. 58(2):197-204, 2014 |
| 16 | Y Goto | Kanazawa University Hospital section of Emergency Medicine, Yawata Medical Center | Decision tree model for predicting outcomes after out-of-hospital cardiac arrest in the emergency department | Crit Care 17:R133, 2013 |

| | | | | |
|----|--|---|---|--|
| 17 | Y Goto | Kanazawa University Hospital section of Emergency Medicine, Yawata Medical Center | Effects of prehospital epinephrine during out-of-hospital cardiac arrest with initial non-shockable rhythm: an observational cohort study | Crit Care 17:R188, 2013 |
| 18 | Y Goto | Kanazawa University Hospital section of Emergency Medicine, Yawata Medical Center | Termination-of-resuscitation rule for emergency department physicians treating out-of-hospital cardiac arrest patients: an observational cohort study | Crit Care 17:R235, 2013 |
| 19 | Y Goto | Kanazawa University Hospital section of Emergency Medicine, Yawata Medical Center | Neurological outcomes in patients transported to hospital without a prehospital return of spontaneous circulation after cardiac arrest | Crit Care 17:R274, 2013 |
| 20 | Yusuke Nakade, et al. | Department of Clinical Laboratory, Kanazawa University Hospital | Reversibility of the Pulmonary Function Based on the Partial Flow-volume Curve Predicts the Efficacy of Bronchodilator Therapy for Treating Chronic Cough | INTERNAL MEDICINE 2013. 9; 52:2017-2023 |
| 21 | 柳瀬 瑞希 | 金沢大学附属病院歯科 口腔外科 | Prognostic value of vascular endothelial growth factors A and C in oral squamous cell carcinoma. | J Oral Pathol Med. (in press) 2014. |
| 22 | 中村 博幸 | 金沢大学附属病院歯科 口腔外科 | Generation of a mouse line harboring a Bi-transgene expressing luciferase and tamoxifen-activatable creER(T2) recombinase in cartilage. | Genesis 52:110, 2014 |
| 23 | 川尻 秀一 | 金沢大学附属病院歯科 口腔外科 | Concomitant loss of p120-catenin and β -catenin membrane expression and oral carcinoma progression with E-cadherin reduction. | PLoS One. 8(8):e69777. 2013. |
| 24 | 吉澤 邦夫 | 金沢大学附属病院歯科 口腔外科 | xCT inhibition depletes CD44v-expressing tumor cells that are resistant to EGFR-targeted therapy in head and neck squamous cell carcinoma. | Cancer Res. 73(6):1855-66. 2013. |
| 25 | 武田 仁勇 | Department of Hygiene, Kanazawa University School of Medicine | Dynamic CCAAT/Enhancer Binding Protein-Associated Changes of DNA Methylation in the Angiotensinogen Gene | Hypertension. 2014 Feb;63:281-288. |
| 26 | 川嶋 広貴 | Department of Radiology, Kanazawa University Hospital | Investigation of image lag and modulation transfer function in fluoroscopy images obtained with a dynamic flat-panel detector | Radiological Physics and Technology. July 2013, Volume 6, Issue 2, pp367-374 |
| 27 | 作田 啓太 | Department of Radiology, Kanazawa University Hospital | Functional shoulder radiography with use of a dynamic flat panel detector | Radiological Physics and Technology. 2014 in press |
| 28 | 米山 寛人 | Department of Radiology, Kanazawa University Hospital | Improved detection of sentinel lymph nodes in SPECT/CT images acquired | Clinical nuclear medicine. January 2014, Volume 39, Issue 1:e1-e6 |
| 29 | Tsuguhito Ota | 金沢大学附属病院内分泌代謝内科 | CCR5: a novel player in the adipose tissue inflammation and insulin resistance? | Adipocyte. 2013 Apr 1;2(2):99-103 |
| 30 | Tsuguhito Ota | 金沢大学附属病院内分泌代謝内科 | Chemokine systems link obesity to insulin resistance. | Diabetes Metab J. 2013 Jun;37(3):165-72 |
| 31 | Ken-ichiro Kato, Toshinari Takamura, Yumie Takeshita, Yasuji Ryu, Hirofumi Misu, Tsuguhito Ota, Osamu Matsui, Shuichi Kaneko | 金沢大学附属病院内分泌代謝内科 | Ectopic fat accumulation and distant organ-specific insulin resistance in Japanese people with nonalcoholic fatty liver disease | PLoS One. 2014 Mar 20;9(3):e92170 |
| 32 | Takeshita Y, Takamura T, Honda M, Kita Y, Zen Y, Kato KI, Misu H, Ota T, Nakamura M, Yamada K, Sunagozaka H, Arai K, Yamashita T, Mizukoshi E, Kaneko S. | 金沢大学附属病院内分泌代謝内科 | The effects of ezetimibe on non-alcoholic fatty liver disease and glucose metabolism: a randomised controlled trial. | Diabetologia. 2014 May;57(5):878-90 |
| 33 | Takamura T | 金沢大学附属病院内分泌代謝内科 | Remodeling of nutrient homeostasis by unfolded protein response | Diabetes. 2014 Mar;63(3):841-3 |
| 34 | Murakami H | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Increase of IL-12 following Reconstruction for Total En Bloc Spondylectomy Using Frozen Autografts Treated with Liquid Nitrogen. | PLoS One. 8: e64818, 2013. |
| 35 | Murakami H | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Novel Reconstruction Technique Using a Frozen Tumor-bearing Vertebra From a Total En Bloc Spondylectomy for Spinal Tumors. | Orthopedics. 36: 605-7, 2013. |
| 36 | Yamamoto N | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Chemotherapy for osteosarcoma - where does it come from? What is it? Where is it going? | Expert Opin Pharmacother. 14: 2183-93, 2013. |
| 37 | Demura S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Laminoplasty and pedicle screw fixation for cervical myelopathy associated with athetoid cerebral palsy: minimum 5-year follow-up. | Spine 38: 1764-9, 2013. |

| | | | | |
|----|------------|---------------------------------------|--|---|
| 38 | Demura S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | The influence of steroid administration on systemic response in laminoplasty for cervical myelopathy. | Arch Orthop Trauma Surg. 133: 1041-5, 2013. |
| 39 | Demura S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Maintenance of thoracic kyphosis in the 3D correction of thoracic adolescent idiopathic scoliosis using direct vertebral derotation. | Spine deformity 1: 46-50. 2013. |
| 40 | Demura S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Is decompensation preoperatively a risk in Lenke 1C curves? | Spine 38: e649-55, 2013. |
| 41 | Demura S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Should Postoperative Pulmonary Function be a Criterion that Affects Upper Instrumented Vertebra Selection in Adolescent Idiopathic Scoliosis Surgery? | Spine 38: 1920-6, 2013. |
| 42 | Shirai T | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Huge and deeply situated glomus tumor: its malignant form. | Current Orthop Pract. 24:670-3, 2013. |
| 43 | Watanabe K | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Over 10-year follow-up of functional outcome in patients with bone tumors reconstructed using distraction osteogenesis. | J Orthop Sci. 18: 101-9, 2013. |
| 44 | Nakase J | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Whole body muscle activity during the FIFA 11+ program evaluated by positron emission tomography. | PLoS One. 16: e73898, 2013. |
| 45 | Nakase J | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Roles of ACL remnants in knee stability. | Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 21: 2101-6, 2013. |
| 46 | Kato S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Patient and family satisfaction with en bloc total resection as a treatment for solitary spinal metastasis. | Orthopedics 36: e1424-30, 2013. |
| 47 | Kato S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Fifteen-year survivor of renal cell carcinoma after metastasectomies for multiple bone metastases. | Orthopedics 36: e1454-7, 2013. |
| 48 | Kato S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Clinical outcome of spinal reconstruction after total en bloc spondylectomy at 3 or more levels. | Spine 38:E1511-6, 2013. |
| 49 | Kato S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Comparative study of the prevalence of venous thromboembolism after elective spinal surgery. | Orthopedics. 36: e223-8. 2013. |
| 50 | Tada K | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Two cases of fibrolipomatous hamartoma of the median nerve: long-term results of carpal tunnel release. | Chirurgia 26: 141-3, 2013. |
| 51 | Takeuchi A | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Complete necrosis of a giant cell tumor with high expression of PPAR γ : a case report. | Anticancer Res. 33: 2169-74, 2013. |
| 52 | Takeuchi A | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Low molecular weight heparin suppresses receptor for advanced glycation end products-mediated expression of malignant phenotype in human fibrosarcoma cells. | Cancer Sci. 104: 740-9, 2013. |
| 53 | Kimura H | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Utility of fluorescence in situ hybridization to detect MDM2 amplification in liposarcomas and their morphological mimics. | Int J Clin Exp Pathol. 6: 1306-16. 2013 |
| 54 | Miwa S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Prognostic value of histological response to chemotherapy in osteosarcoma patients receiving tumor-bearing frozen autograft. | PLoS ONE. 8: e71362, 2013. |
| 55 | Miwa S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Prognostic value of radiological response to chemotherapy in patients with osteosarcoma. | PLoS ONE. 8: e70015, 2013. |
| 56 | Miwa S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Dinamic color-coded fluorescence imaging of the cell-cycle phase, mitosis, and apoptosis demonstrates how caffeine modulates cisplatin efficacy. | J Cell Biochem. 114: 2454-60, 2013. |
| 57 | Miwa S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Imaging UVC-induced DNA damage response in models of minimal cancer. | J Cell Biochem. 114: 2493-9, 2013. |
| 58 | Miwa S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Single cell time-lapse imaging of focus formation by the DNA damage-response protein 53BP1 after UVC irradiation of human pancreatic cancer cells. | Anticancer Res. 33: 1373-7, 2013. |
| 59 | Kajino Y | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Strict component positioning is necessary in hip resurfacing. | J Orthop Sci. 18: 290-7, 2013. |
| 60 | Suganuma S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Reconstruction using a free vascularized fibular graft after frozen autograft reconstruction for osteosarcoma of the distal tibia: a case report. | Modern Plastic Surgery. 3: 47-50, 2013. |

| | | | | |
|----|---|--|--|--|
| 61 | Iwai S | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Intraoperative Radiography to Avoid Incomplete Seating of Trident Acetabular System Ceramic Liners. | European Orthopaedics and Traumatology. 4: 21-5, 2013. |
| 62 | Kosaka M | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Outcomes and Failure Factors in Surgical Treatment for Osteochondritis Dissecans of the Capitellum. | J Pediatr Orthop. 33: 719-24, 2013. |
| 63 | Inatani H | Sept. of Orthop. Surg. Kanazawa Univ. | Revision total hip arthroplasty of a Kyocera ABS cup which produced abnormal sounds before dissociation and fracture. a case report. | Chirurgia. 26: 181-3, 2013. |
| 64 | Keisuke Nagase | Healthcare Management and Medical Informatics, Graduate school of medicine, Kanazawa University | Software Defined Network Application in Hospital | InImpact: The Journal of Innovation Impact Vol.6. No.1:pp.1-11 |
| 65 | Kitagawa Y, Ueno S, Izumi K, Kadono Y, Konaka H, Mizokami A, Namiki M. | Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Ishikawa, Japan | Cumulative probability of prostate cancer detection in biopsy according to free/total PSA ratio in men with total PSA levels of 2.1-10.0 ng/ml at population screening. Journal of cancer research and clinical oncology | Journal of cancer research and clinical oncology 2014;140(1):53-59. |
| 66 | Yaegashi H, Izumi K, Kitagawa Y, Kadono Y, Konaka H, Mizokami A, Namiki M. | Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Ishikawa, Japan | Differential diagnosis between bacterial infection and neoplastic fever in patients with advanced urological cancer: The role of procalcitonin. | Int J Urol 2014 Jan;21(1):104-6 |
| 67 | SATORU UENO, ATSUSHI MIZOKAMI, YUKIHIRO KONDO, MIKIO NAMIKI | Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Ishikawa, Japan | Efficacy of Combined Androgen Blockade with Zoledronic Acid Treatment in Prostate Cancer with Bone Metastasis: The ZABTON-PC (Zoledronic Acid/Androgen Blockade Trial on Prostate Cancer) Study. | Anticancer Res 2013;33(9):3837-3844. |
| 68 | MITSUO OFUDE, ATSUSHI MIZOKAMI, KOUJI IZUMI, HIROYUKI KONAKA, YOSHIFUMI KADONO, YASUhide KITAGAWA, MINKYOUNG SHIN, MIKIO NAMIKI | Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Ishikawa, Japan | Repression of cell proliferation and androgen receptor activity in prostate cancer cells by 2'-hydroxyflavanone. | Anticancer Res 2013;33(10):4453-4461. |
| 69 | Kitagawa Y, Shigehara K, Kawaguchi S, Yaegashi H, Mizokami A, Namiki M. | Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Ishikawa, Japan | Japan Cancer of the Prostate Risk Assessment for combined androgen blockade including bicalutamide: Clinical application and validation. | Int J Urol 2013;20(7):708-714. |
| 70 | Kadono Y, Yaegashi H, Machioka K, Ueno S, Miwa S, Maeda Y, Miyagi T, Mizokami A, Tsubokawa T, Namiki M. | Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Ishikawa, Japan | Cardiovascular and respiratory effects of the degree of head-down angle during robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy. The international journal of medical robotics + computer assisted surgery | The international journal of medical robotics + computer assisted surgery 2013;9(1):17-22. |
| 71 | Kouji Izumi, Atsushi Mizokami | Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Ishikawa, Japan | Androgen receptor roles in the development of benign prostate hyperplasia. | The American journal of pathology 2013;182(6):1942-1949. |
| 72 | Kouji Izumi, Atsushi Mizokami, Mikio Namiki | Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University, Kanazawa, Ishikawa, Japan | Targeting the androgen receptor with siRNA promotes prostate cancer metastasis through enhanced macrophage recruitment via CCL2/CCR2-induced STAT3 activation. | EMBO molecular medicine 2013;5(9):1383-1401. |

| | | | | |
|----|---|--|---|--|
| 73 | 衣斐 寛倫 | Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University / Massachusetts General Hospital Cancer Center and Harvard Medical School | PI3K regulates MEK/ERK signaling in breast cancer via the Rac-GEF, P-Rex1. | Proceedings of the National Academy of Science (PNAS) 2013; 110(52):21124-9. |
| 74 | 南條 成輝 | Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University | Ability of the Met kinase inhibitor crizotinib and new generation EGFR inhibitors to overcome resistance to EGFR inhibitors. | PLoS ONE 2013; 8(12): e84700. |
| 75 | Zhao Lu | Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University | Paracrine activation of MET promotes peritoneal carcinomatosis in scirrhus gastric cancer. | Cancer Science 2013;104(12):1640-6. |
| 76 | 中川 学之 | Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University | EGFR-TKI resistance due to BIM polymorphism can be circumvented in combination with HDAC inhibition. | Cancer Research 2013; 73(8):2428-34. |
| 77 | 佐野 峻子 | Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University | The novel phosphoinositide 3-kinase-mammalian target of rapamycin inhibitor, BEZ235, circumvents erlotinib resistance of epidermal growth factor receptor mutant lung cancer cells triggered by hepatocyte growth factor. | International Journal of Cancer 2013;133(2):505-13. |
| 78 | 石川 大輔 | Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University | mTOR inhibitors control erlotinib-resistance of EGFR mutant lung cancer cells triggered by HGF. | PLoS ONE 2013; 8(5):e62104. |
| 79 | 山田 忠明 | Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University | Akt kinase-interacting protein1, a novel therapeutic target for lung cancer with EGFR activating and gatekeeper mutations. | Oncogene 2013; 32(37):4427-35. |
| 80 | 大坪 公士郎 | Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University | Synchronous triple cancers of the pancreas, stomach, and cecum treated with S-1 followed by pancrelipase treatment of pancreatic exocrine insufficiency. | Journal of the Pancreas 2013; 14: 515-20. |
| 81 | 浜口 毅 | Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Science | Insight into the frequent occurrence of dura mater graft-associated Creutzfeldt-Jakob disease in Japan. | J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2013 Oct;84(10):1171-1175 |
| 82 | 岩佐 和夫 | Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Science | Myasthenia gravis: predictive factors associated with the synchronized elevation of anti-acetylcholine receptor antibody titer in Kanazawa, Japan. | J Neuroimmunol. 2014 Feb 15;267(1-2):97-101 |
| 83 | 小松 潤史 | Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Science | Inclusion body myopathy with Paget disease of the bone and frontotemporal dementia associated with a novel G156S mutation in the VCP gene. | Muscle Nerve. 2013 Dec; 48(6):995-996 |
| 84 | 篠原 もえ子 | Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Science | Differences in the prevalence of dementia and mild cognitive impairment and cognitive functions between early and delayed responders in a community-based study of the elderly. | J Alzheimers Dis. 2013;37(4):691-698 |
| 85 | 小野 賢二郎 | Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Science | Effects of antiparkinsonian agents on β -amyloid and α -synuclein oligomer formation in vitro. | J Neurosci Res. 2013 Oct;91(10):1371-1381 |
| 86 | 坂井 健二 | Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Science | Graft-related disease progression in dura mater graft-associated Creutzfeldt-Jakob disease: a cross-sectional study. | BMJ Open. 2013 Aug 23;3(8):e003400 |
| 87 | Takumi Taniguchi, A Kurita, T Noda, M Okajima | Intensive Care Unit, Kanazawa University Hospital | Efficacy of endotoxin adsorption therapy (polymyxin B hemoperfusion) for methicillin-resistant Staphylococcus aureus toxic shock syndrome: A case report about five patients. | Minerva Anestesiologica, 2013; 79: 758-761 |

| | | | | |
|----|--|--|---|---|
| 88 | Komura T, Takumi Taniguchi, Sakai Y, Yamashita T, Mizukoshi E, Noda T, Okajima M, Kaneko S | Intensive Care Unit, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan 2 Disease Control and Homeostasis, Kanazawa University, Kanazawa, Japan | The efficacy of continuous plasma diafiltration therapy in critical patients with acute liver failure. | J Gastroenterol Hapatol 2014 Apr, 29(4) : 782-6 |
| 89 | Shimizu M, Taniguchi T | Department of Pediatrics, School of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Japan Intensive Care Unit, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | Successful Treatment of Enterohemorrhagic Escherichia coli O111-Induced Acute Encephalopathy and Hemolytic-Uremic Syndrome With Plasma Diafiltration. | Ther Apher Dial. 2014 Jan 27 |
| 90 | 岡崎 彰仁 | Department of Respiratory Medicine, Cellular Transplantation Biology, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa, Ishikawa, Japan. | Effects of Pirfenidone on Increased Cough Reflex Sensitivity in Guinea Pigs. | Pulm Pharmacol Ther 26, 603-8. 2013. 05 |
| 91 | 岩城 憲子 | Departments of Pathology Head and Neck Surgery, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Shikata-cho, Okayama, Japan. | B-cell lymphoma, unclassifiable, with features intermediate between diffuse large B-cell lymphoma and classical Hodgkin lymphoma without mediastinal disease: mimicking nodular sclerosis classical Hodgkin lymphoma. | Med Mol Morphol. 46(3) :172-176. 2013. 05 |
| 92 | 高松 博幸 | Cellular Transplantation Biology (Hematology/Respirology), Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Ishikawa, Japan. | Detection of minimal residual disease in patients with multiple myeloma using clonotype-specific PCR primers designed from DNA extracted from archival bone marrow slides. | Exp Hematol. 2013 Oct;41(10) :894-902 |
| 93 | 岡崎 彰仁 | Department of Respiratory Medicine, Cellular Transplantation Biology, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa, Ishikawa, Japan. | Successful treatment with chemotherapy and corticosteroids of pulmonary Mycobacterium abscessus infection accompanied by pleural effusion. | J Infect Chemother. 19(5) :964-968, 2013. 10 |
| 94 | 高松 博幸 | Cellular Transplantation Biology (Hematology/Respirology), Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Ishikawa, Japan. | Post-transplantation consolidation and maintenance therapy with lenalidomide for Japanese patients with multiple myeloma. | Anticancer Res. 33(12) :5681-5685. 2013. 12 |
| 95 | 岩城 憲子 | Departments of Pathology Head and Neck Surgery, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Shikata-cho, Okayama, Japan. | Atypical hyaline vascular-type castleman's disease with thrombocytopenia, anasarca, fever, and systemic lymphadenopathy. | J Clin Exp Hematop. 53(1) :87-93. 2013 |
| 96 | 渡辺 知志 | Department of Respiratory Medicine, Cellular Transplantation Biology, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa, Ishikawa, Japan. | Transformation to small-cell lung cancer following treatment with EGFR tyrosine kinase inhibitors in a patient with lung adenocarcinoma. | Lung Cancer. 82(2) :370-372, 2013. 11 |
| 97 | 朝倉 英策 | Department of Internal Medicine (III), Kanazawa University School of Medicine, Kanazawa, Japan. | Classifying types of disseminated intravascular coagulation | Clinical and animal models. Journal of Intensive Care 2 (20) 2014. 03 |

| | | | | |
|-----|---|--|--|--|
| 98 | Asakura H | Department of Internal Medicine (III), Kanazawa University School of Medicine, Kanazawa, Japan. | Post-marketing surveillance of thrombomodulin alfa, a novel treatment of disseminated intravascular coagulation – safety and efficacy in 1,032 patients with hematologic malignancy. | Thromb Res. 2014 Mar;133(3):364–70, 2014.03 |
| 99 | Watanabe S | Department of Respiratory Medicine, Cellular Transplantation Biology, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa, Ishikawa, Japan. | Transformation to small-cell lung cancer following treatment with EGFR tyrosine kinase inhibitors in a patient with lung adenocarcinoma. | Lung Cancer. 2013 Nov;82(2):370–2 |
| 100 | Sugimoto H, Ito M, Yoshizaki T. | Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, School of Medicine, Kanazawa University, Kanazawa | Retrograde approach and soft wall reconstruction in surgery for congenital cholesteatoma. | Acta Otolaryngol. 2013 Nov;133(11):1142–7 |
| 101 | Murono S, Yoshizaki T. | Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, School of Medicine, Kanazawa University, Kanazawa | Hypopharyngeal presentation of cicatricial pemphigoid: videofluorographic and direct laryngoscopic findings | J Laryngol Otol. 2013 Apr;127(4):429–31 |
| 102 | Murono S, Tsuji A, Endo K, Kondo S, Wakisaka N, Yoshizaki T. | Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, School of Medicine, Kanazawa University, Kanazawa | Immunohistochemical detection of SATB1 is independent of thyroid cancer differentiation. | Laryngoscope. 2013 Nov;123(11):2909–12 |
| 103 | Kondo S, Wakisaka N, Tsuji A, Endo K, Murono S, Ito M, Kitamura K, Yoshizaki T. | Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, School of Medicine, Kanazawa University, Kanazawa | Role of activation-induced cytidine deaminase in the development of oral squamous cell carcinoma. | PLoS One. 2013 Apr 25;8(4):e62066 |
| 104 | Yoshizaki T, Kondo S, Wakisaka N, Murono S, Endo K, Sugimoto H, Tsuji A, Ito M. | Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, School of Medicine, Kanazawa University, Kanazawa | Pathogenic role of Epstein-Barr virus latent membrane protein-1 in the development of nasopharyngeal carcinoma. | Cancer Lett. 2013 Aug 28;337(1):1–7 |
| 105 | Ogawa K, Nishijima K, Nishimura G. | Department of Oto-rhino-laryngology and Clinic of Japanese Oriental (Kampo) Medicine, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | Effectiveness of traditional Japanese herbal (kampo) medicine, daiobotanpito, in combination with antibiotic therapy in the treatment of acute diverticulitis: a preliminary study. | Evid Based Complement Alternat Med. 2013;2013:305414 |
| 106 | Ogawa K, Nishijima K, Nishimura G. | Department of Oto-rhino-laryngology and Clinic of Japanese Oriental (Kampo) Medicine, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | Efficacy of contact needle therapy for chemotherapy-induced peripheral neuropathy. | Evid Based Complement Alternat Med. 2013;2013:928129 |
| 107 | Ueno T, Endo K, Kondo S, Wakisaka N, Murono S, Ito M, Yoshizaki T. | Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, School of Medicine, Kanazawa University, Kanazawa | Factors affecting outcomes of alternating chemoradiotherapy for nasopharyngeal cancer. | Ann Otol Rhinol Laryngol. 2014 Mar 14;123(7):509–516 |
| 108 | Sawamoto K | Department of Hospital Pharmacy, University Hospital, Kanazawa University Department of Medical Informatics, Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa University | Mechanisms of lower maintenance dose of tacrolimus in obese patients. | Drug Metab Pharmacokinet, doi: 10.2133 (Epub 2014/3) |
| 109 | 林 裕 | Department of Neurosurgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan. | Predictive value of fractional anisotropy of the arcuate fasciculus for the functional recovery of language after brain tumor resection | Clin Neurol Neurosurg 2014 Feb;117:45–50 |
| 110 | 林 裕 | Department of Neurosurgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan. | The mechanism of chemoresistance against tyrosine kinase inhibitors in malignant glioma. | Brain Tumor Pathol 2014 Jan 8 (Epub ahead of print) |

| | | | | |
|-----|---|---|---|--|
| 111 | 林 裕 | Department of Neurosurgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan. | Characterizing invading glioma cells based on IDH1-R132H and Ki-67 immunofluorescence. | Brain Tumor Pathol 2014 Jan 3. (Epub ahead of print) |
| 112 | 林 裕 | Department of Neurosurgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan. | Ligand-dependent EphB1 signaling suppresses glioma invasion and correlates with patient survival. | Neuro Oncol. 2013 Dec;15(12):1710-20 |
| 113 | 林 裕 | Department of Neurosurgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan. | Surgical strategies for nonenhancing slow-growing gliomas with special reference to functional reorganization | Neurol Med Chir 2013;53(7):438-46 |
| 114 | 林 裕 | Department of Neurosurgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan. | Glycogen synthase kinase 3 β inhibition sensitizes human glioblastoma cells to temozolomide by affecting O6-methylguanine DNA methyltransferase promoter methylation via c-Myc signaling. Carcinogenesis. | Carcinogenesis 2013 Oct;34(10):2206-17 |
| 115 | 林 裕 | Department of Neurosurgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan. | Integrin α 3 is overexpressed in glioma stem-like cells and promotes invasion. | Br J Cancer 2013 Jun 25;108(12):2516-24 |
| 116 | 林 裕 | Department of Neurosurgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan. | Molecular analysis of a recurrent glioblastoma treated with bevacizumab. Brain Tumor Pathol. | Brain Tumor Pathol 2014 Jan;31(1):32-9 |
| 117 | 林 裕 | Department of Neurosurgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan. | Visualization of angiographical arteriovenous shunting in perisylvian glioblastomas. | Acta Neurochir 2013 Apr;155(4):715-9 |
| 118 | 林 裕 | Department of Neurosurgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan. | Force-detecting gripper and force feedback system for neurosurgery applications. | Int J Comput Assist Radiol Surg. 2013 Sep;8(5):819-29 |
| 119 | 林 裕 | Department of Neurosurgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan. | Right superior longitudinal fasciculus: implications for visuospatial neglect mimicking Gerstmann's syndrome. | Clin Neurol Neurosurg 2013 Jun;115(6):775-7 |
| 120 | 林 裕 | Department of Neurosurgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan. | Regression of cerebellar tonsillar descent and hydrocephalus after endoscopic third ventriculostomy in a patient with a quadrigeminal arachnoid cyst. | Surg Neurol Int. 2013 Oct 15;4:142 |
| 121 | 林 康彦 | 金沢大学附属病院脳神経外科 | Detection of the development of late-onset idiopathic aqueductal stenosis (LIAS) by chronological magnetic resonance imaging: a case report. | Childs Nerv Syst. 2014 Jan 12. 10. 4103/2152-7806.119883 |
| 122 | Ishikawa N, Watanabe G, Tomita S, Yamaguchi S, Nishida Y, Iino K. | Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University | Robot-assisted minimally invasive direct coronary artery bypass grafting. | ThoraCAB. Circ J. 2014;78(2):399-402. |
| 123 | Watanabe G, Yamaguchi S, Takagi T, Tomita S, Tuan PM. | Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University | Potent vasodilatory effect of fasudil on radial artery graft in coronary artery bypass operations. | Ann Thorac Surg. 2014 Mar;97(3):845-50. |
| 124 | Watanabe G, Takagi T, Tomita S, Yamaguchi S, Kiuchi R. | Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University | Fasudil is a superior vasodilator for the internal thoracic artery in coronary surgery. | Ann Thorac Surg. 2013 Aug;96(2):543-7. |
| 125 | Watanabe G, Ohtake H, Iino K, Tomita S. | Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University | One-shot aortic anastomosis with an automatic stapling gun. | J Thorac Cardiovasc Surg. 2013 Apr;145(4):1132-3. |
| 126 | Iino K, Oda M, Matusmoto I, Tomita S, Koshida Y, Yamaguchi S, Ohtake H, Watanabe G. | Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University | Simultaneous surgical correction of pectus excavatum and cardiac disease in two adults. | Thorac Cardiovasc Surg. 2014 Apr;62(3):261-4. |
| 127 | Oda M, Matsumoto I, Takizawa M, Waseda R, Ishikawa N, Watanabe G. | Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University | Needlescopic video-assisted wedge resection combined with the subcostal trans-diaphragmatic approach for undetermined peripheral pulmonary nodules | Surg Endosc 27(10):3671-7, 2013 |
| 128 | Matsumoto I, Oda M, Takizawa M, Waseda R, Nakajima K, Kawano M, Watanabe G. | Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University | Usefulness of fluorine-18 fluorodeoxyglucose-positron emission tomography in management strategy for thymic epithelial tumors | Ann Thorac Surg 95(1):305-10, 2013 |

| | | | | |
|-----|--|---|---|---|
| 129 | Matsumoto I, Oda M, Yachi T, Tsuchiya H, Zen Y, Watanabe G. | Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University | Outcome prediction of pulmonary metastasectomy can be evaluated using metastatic lesion in osteosarcoma patients | World J Surg 37(8) : 1973-80, 2013 |
| 130 | Waseda R, Oda M, Matsumoto I, Takizawa M, Ohshima M, Watanabe G. | Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University | A novel fluorescence technique for identification of the pulmonary segments by using the photodynamic diagnosis endoscopic system: an experimental study in ex vivo porcine lung | J Thorac Cardiovasc Surg 146(1) : 222-7, 2013 |
| 131 | Norihiko Ishikawa, Masahiko Kawaguchi, Hideki Moriyama, Go Watanabe | Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University | Robot-Assisted Thyroidectomy With Novel Camera-Port Retractor | Innovations 2013;8:384Y388 |
| 132 | Oda M, Matsumoto I, Waseda R, Watanabe G. | Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University | Total port-access lobectomy via a subcostal trans diaphragmatic approach for lung cancer | Interact Cardiovasc Thorac Surg 16(2) : 211-3, 2013 |
| 133 | Miyashita T, Miwa K, Fujimura T, Ninomiya I, Fushida S, Shah F, Harmon J, Hattori T, Ohta T. | 金沢大学附属病院肝胆膵外科 | The severity of duodeno-esophageal reflux influences the development of different histological types of esophageal cancer in a rat model | International Journal of Cancer 2013. 04 132(7) : 1496-1504 |
| 134 | Tsukada T, Fushida S, Harada S, Terai S, Yagi Y, Kinoshita J, Oyama K, Tajima H, Ninomiya I, Fujimura T, Ohta T. | 金沢大学附属病院胃腸外科 | Low-dose paclitaxel modulates tumor fibrosis in gastric cancer | Int J Oncology 2013. 04 42(4) : 1167-1174 |
| 135 | Fushida S, Kinoshita J, Kaji M, Hirono Y, Gode F, Yagi Y, Oyama K, Sudo Y, Watanabe Y, Fujimura T. Society for the Study of Peritoneal Carcinomatosis in Gastric Cancer. | 金沢大学附属病院胃腸外科 | Phase I/II study of intraperitoneal docetaxel plus S-1 for the gastric cancer patients with peritoneal carcinomatosis. | Cancer Chemother Pharmacol. 2013. 05 71(5) : 1265-1272 |
| 136 | Kitagawa H, Tajima H, Nakagawara H, Hayashi H, Makino I, Takamura H, Ninomiya I, Fushida S, Kayahara M, Ohta T, Ikeda H. | 金沢大学附属病院肝胆膵外科 | The reetropancreatic fusion fascia acts as a barrier against infiltration by pancreatic carcinoma | Molecular and Clinical Oncology 2013. 05 1(3) : 418-422 |
| 137 | Makino I, Kitagawa H, Nakagawara H, Tajima H, Ninomiya I, Fushida S, Fujimura T, Ohta T. | 金沢大学附属病院肝胆膵外科 | The management of a remnant pancreatic stump for preventing the development of postoperative pancreatic fistulas after distal pancreatectomy: current evidence and our strategy | Surgery Today 2013. 06 43(6) : 595-602 |
| 138 | Tajima H, Kitagawa H, Tsukada T, Nakanuma S, Okamoto K., Sakai S, Makino I, Furukawa H, Nakamura K, Hayashi H, Oyama K, Inokuchi M, Nakagawara H, Miyashita T, Fujita H, Itoh H, Takamura H, Ninomiya I, Fushida S, Fujimura T, Ohta T. | 金沢大学附属病院肝胆膵外科 | A phase I study of neoadjuvant chemotherapy with gemcitabine plus oral S-1 for resectable pancreatic cancer | Molecular and Clinical Oncology 2013. 07 1(4) : 768-772 |
| 139 | Miyashita T, Miwa K, Inokuchi M, Nakagawara H, Tajima H, Takamura H, Ninomiya I, Kitagawa H, Fushida S, Fujimura T, Hattori T, Ohta T. | 金沢大学附属病院肝胆膵外科 | Spontaneous clearance of Helicobacter pylori after pylorus-preserving gastrectomy for gastric cancer. | Oncol Rep. 2013. 07 30(1) : 299-303 |
| 140 | Tajima H, Kitagawa H, Nakanuma S, Makino I, Hayashi H, Nakagawara H, Miyashita T, Takamura H, Ohta T. | 金沢大学附属病院肝胆膵外科 | Reconsidering the bounday of the pancreatic body and tail in pancreatic cancer surgery | Pancreas 2013. 07 42(5) : 895 |
| 141 | Tajima H, Kitagawa H, Tsukada T, Okamoto K, Nakanuma S, Sakai S, Makino I, Furukawa H, Hayashi H, Oyama K, Inokuchi M, Nakagawara H, Miyashita T, Itoh H, Fujita H, Takamura H, Ninomiya I, Fushida S, Fujimura T, Ohta T, Koda W, Minami T, Ryu Y, Sanada J, Gabata T, Matsui O, Sai Y. | 金沢大学附属病院肝胆膵外科 | Hepatic arterial infusion chemotherapy with gemcitabine and 5-fluorouracil or oral S-1 improves the prognosis of patients with postoperative liver metastases from pancreatic cancer | Molecular and Clinical Oncology 2013. 08 1(5) : 869-874 |
| 142 | Furukawa H, Shimura A, Tajima H, Tsukara T, Nakanuma S, Okamoto K, Sasaki S, Makino I, Nakamura K, Hayashi H, Oyama K, Inokuchi M, Nakagawara H, Miyashita T, Fujita H, Takamura H, Ninomiya I, Kitagawa H, Fushida S, Fujimura T, Ohta T. | 金沢大学附属病院乳腺科 | Concentration of tissue angiotensin II increases with severity of experimental pancreatitis | Molecular Medicine Reports 2013. 08 8(2) : 335-338 |
| 143 | Miyashita T, Shah FA, Harmon JW, Marti GP, Matsui D, Okamoto K, Makino I, Hayashi H, Oyama K, Nakagawara H, Tajima H, Fujita H, Takamura H, Murakami M, Ninomiya I, Kitagawa H, Fushida S, Fujimura T, Ohta T. | 金沢大学附属病院肝胆膵外科 | Do proton pump inhibitors protect against cancer progression in GERD? | Surgery Today 2013. 08 43(8) : 831-837 |
| 144 | Ojima T, Kinami S, Nakamura K, Oyama K, Inokuchi M, Fujita H, Ninomiya I, Fushida S, Fujimura T, Kitamura S, Harada S, Ohta T. | 金沢大学附属病院胃腸外科 | Advantages of the rapin double-staining method for intraoperative detection of micrometastasis in sentinel lymph nodes. | Oncol Rep. 2013. 09 30(3) : 1067-1072 |
| 145 | Fushida S, Oyama K, Kinoshita J, Tsukada T, Okamoto K, Tajima H, Ninomiya I, Kitagawa H, Fujimura T, Ohta T. | 金沢大学附属病院胃腸外科 | Intraperitoneal chemotherapy as a multimodal treatment for gastric cancer patients with peritoneal metastasis | Journal of Cancer Therapy 2013. 10 4(9A) : 6-15 |
| 146 | Hirose A, Tajima H, Ohta T, Tsukada T, Okamoto K, Nakanuma S, Sakai S, Kinoshita J, Makino I, Furukawa H, Hayashi H, Nakamura K, Oyama K, Inokuchi M, Nakagawara H, Miyashita T, Takamura H, Ninomiya I, Kitagawa H, Fushida S, Fujimura T, Harada S. | 金沢大学附属病院胃腸外科 | Low-dose paclitaxel inhibits the induction of epidermal-mesenchymal transition in the human cholangiocarcinoma CCKS-1 cell line | Oncology Letters 2013. 10 6(4) : 915-920 |
| 147 | Fushida S, Oyama K, Kinoshita J, Yagi Y, Okamoto K, Tajima H, Ninomiya I, Fujimura T, Ohta T. | 金沢大学附属病院胃腸外科 | VEGF is a target molecule for peritoneal metastasis and malignant ascites in gastric cancer: prognostic significance of VEGF in ascites and efficacy of anti-VEGF monoclonal antibody | OncoTargets and Therapy 2013. 10 6 : 1445-1451 |

| | | | | |
|-----|--|---------------|---|--|
| 148 | Kitagawa Y, Takeuchi H, Natsugoe S, Terashima M, Murakami M, Fujimura T, Tsujimoto H, Hayashi H, Yoshimizu N, Takagane A, Mohri Y, Nabeshima K, Uenosono Y, Kinami S, Sakamoto J, Morita S, Aikou T, Miwa K, Kitajima M. | 金沢大学附属病院肝胆膵外科 | Sentinel node mapping for gastric cancer: A prospective multicenter trial in Japan. | Journal of Clinical Oncology 2013. 10 31 (29) : 3704-3711 |
| 149 | Takamura H, Nakamura S, Hayashi H, Tajima H, Kakinoki K, Sakai S, Makino I, Nakagawara H, Miyashita T, Okamoto K, Nakamura K, Oyama K, Inokuchi M, Ninomiya I, Kitagawa H, Fushida S, Fujimura T, Ohnishi I, Kayahara M, Tani T, Arai K, Yamashita T, Kitamura H, Ikeda H, Kaneko S, Nakanuma Y, Matsui O, Ohta T. | 金沢大学附属病院肝胆膵外科 | Evaluation of eligibility criteria in living donor liver transplantation for hepatocellular carcinoma by α -SMA positive cancer associated fibroblast. | Oncology Report 2013. 10 30 (4) : 1561-1574 |
| 150 | Oyama K, Fushida S, Kinoshita J, Okamoto K, Makino I, Nakamura K, Hayashi H, Inokuchi M, Nakagawara H, Tajima H, Fujita H, Takamura H, Ninomiya I, Kitagawa H, Fujimura T, Ohta T. | 金沢大学附属病院胃腸外科 | Serum cytokeratin 18 as a biomarker for gastric cancer. | Clinica and Experimental Medicine 2013. 11 13 (4) : 289-295 |
| 151 | Oyama K, Fushida S, Kaji M, Takeda T, Kinami S, Hirono Y, Yoshimoto K, Yabushita K, Hirose H, Takai Y, Nakano T, Kimura H, Yasui T, Tsuneda A, Tsukara T, Kinoshita J, Fujimura T, Ohta T. | 金沢大学附属病院胃腸外科 | Aprepitant plus granisetron and dexamethasone for prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients with gastric cancer treated with S-1 plus cisplatin. | J Gastroenterol. 2013. 11 48 (11) : 1234-1241 |
| 152 | Ninomiya I, Okamoto K, Fujimura T, Fushida S, Osugi H, Ohta T. | 金沢大学附属病院胃腸外科 | Oncologic outcomes of thoracoscopic esophagectomy with extended lymph node dissection: 10-year experience from a single center | World J Surg 2014. 01 38 (1) : 120-130 |
| 153 | Ninomiya I, Osugi H, Fujimura T, Fushida S, Okamoto K, Maruzen S, Oyama K, Kinoshita J, Tsukada T, Kitagawa H, Takamura H, Nakagawara H, Tajima H, Hayashi H, Makino I, Ohta T. | 金沢大学附属病院胃腸外科 | Thoracoscopic esophagectomy with extended lymph node dissection in the left lateral position: technical feasibility and oncologic outcomes. | Diseases of the Esophagus 2014. 02 27 (2) : 159-167 |
| 154 | Miyashita T, Tajima H, Furhawn A, Shah, Oshima M, DVM, Makino I, Nakagawara H, Kitagawa H, Fujimura T, John W. Harmon, Ohta T. | 金沢大学附属病院肝胆膵外科 | Impact of inflammation-metaplasia-adenocarcinoma sequence and inflammatory microenvironment in esophageal carcinogenesis using surgical rat models. | Ann Surg Oncol. 2014 Jun; 21 (6) : 2012-9 |
| 155 | Oyama K, Fushida S, Tsukada T, Kinoshita J, Watanabe T, Shiji M, Nakamura S, Okamoto K, Sakai S, Makino I, Nakamura K, Hayashi H, Inokuchi M, Nakagawara H, Miyashita T, Tajima H, Takamura H, Ninomiya I, Kitagawa H, Fujimura T, Tajiri R, Ooi A, Ohta T. | 金沢大学附属病院胃腸外科 | Evaluation of serum HER2-ECD levels in patients with gastric cancer. | J Gastroenterol. 2014 Feb 21 |
| 156 | Kitagawa H, Tajima H, Nakagawara H, Makino I, Miyashita T, Shoji M, Nakamura S, Hayashi H, Takamura H, Ohta T, Ohtake H. | 金沢大学附属病院肝胆膵外科 | En bloc vascular resection for the treatment of borderline resectable pancreatic head carcinoma | Molecular and Clinical Oncology 2014. 05 2 (3) : 369-374 |
| 157 | 中村 充宏 | 金沢大学附属病院産科婦人科 | The PRB-dependent FOXO1/IGFBP-1 axis is essential for progestin to inhibit endometrial epithelial growth. | Cancer Lett 366: 68-75, 2013 |
| 158 | 中村 充宏 | 金沢大学附属病院産科婦人科 | Molecular characterization of CD133+ cancer stem-like cells in endometrial cancer. | Int J Oncol. 44: 669-77, 2014 |
| 159 | Honda M, Shirasaki T, Shimakami T, Arai K, Yamashita T, Sakai Y, Yamashita T, Okada H, Mizukoshi E, Kaneko S. | 金沢大学附属病院消化器内科 | Hepatic interferon-stimulated genes are differentially regulated in the liver of chronic hepatitis C patients with different interleukin 28B genotypes. | Hepatology 59 (3) 828-838 2014Mar |
| 160 | Honda M, Yamashita T, Yamashita T, Arai K, Sakai Y, Mizukoshi E, Kaneko S. | 金沢大学附属病院消化器内科 | Peretinoin, an acyclic retinoid, improves the hepatic gene signature of chronic hepatitis C following curative therapy of hepatocellular carcinoma. | BMC Cancer. 2013 |
| 161 | Komura T, Taniguchi T, Sakai Y, Yamashita T, Mizukoshi E, Noda T, Okajima M, Kaneko S | 金沢大学附属病院消化器内科 | The efficacy of Continuous Plasma Diafiltration Therapy in critical Patients with Acute Liver Failure. | Journal of Gastroenterology and Hepatology 29 (4) 782-786 2014 |
| 162 | Mizukoshi E, Yamashita T, Arai K, Sunagozaka H, Ueda T, Arihara F, Kagaya T, Yamashita T, Kaneko S. | 金沢大学附属病院消化器内科 | Enhancement of tumor-associated antigen-specific T cell responses by radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma. | Hepatology. 57 (4) 1448-1457 2013 |
| 163 | Nakagawa H, Mizukoshi E, Iida N, Terashima T, Kitahara M, Marukawa Y, Kitamura K, Nakamoto Y, Kaneko S. | 金沢大学附属病院消化器内科 | In vivo immunological antitumor effect of OK-432-stimulated dendritic cell transfer after radiofrequency ablation. | Cancer Immunol Immunother 63 (4) 347-356 2014 |
| 164 | Fakuya Komura, Yoshio Sakai, Masao Honda, Toshinari Takamura, Takashi Wada, Shuichi Kaneko | 金沢大学附属病院消化器内科 | ER stress induced impaired TLR signaling and macrophage differentiation of human monocytes | Cell Immunol 282 (1) 44-52 2013 |
| 165 | Yamashita T | 金沢大学附属病院消化器内科 | Cancer stem cells in the development of liver cancer. | J Clin Invest 123 (5) 1911-1948 2013 |
| 166 | Yamashita T, Honda M, Nakamoto Y, Nio K, Hara Y, Zeng SS, Takatori H, Yamashita T, Mizukoshi E, Ikeda H, Zen Y, Takamura H, Kaneko S | 金沢大学附属病院消化器内科 | Discrete nature of EpCAM(+) and CD90(+) cancer stem cells in human hepatocellular carcinoma. | Hepatology 57 (1) 1484-1497 2013 |
| 167 | Yamashita T, Kaneko S. | 金沢大学附属病院消化器内科 | Treatment strategies for hepatocellular carcinoma in Japan. | Hepato Res 43 (1) 44-50 2013 |

| | | | | |
|-----|---|---|---|--|
| 168 | Wada T | Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | LPA1-induced cytoskeleton reorganization drives fibrosis through CTGF-dependent fibroblast proliferation | FASEB J 27(5) 1830-1846 2013. 5 |
| 169 | Toyama T, Furuichi K, Shimizu M, Hara A, Iwata Y, Kaneko S, Wada T. | Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | The impacts of albuminuria and low eGFR on the risk of cardiovascular death, all-cause mortality, and renal events in diabetic patients: meta-analysis. | PLoS One. 2013 Aug 30;8(8):e71810 |
| 170 | Wada T, Furuichi K, Shimizu M, Toyama T, Hara A | Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | Clinical impact of albuminuria and glomerular filtration rate on renal and cardiovascular events, and all-cause mortality in Japanese patients with type 2 diabetes. | Clin Exp Nephrol. 2013 Oct 17 |
| 171 | Toyama T, Shimizu M, Furuichi K, Kaneko S, Wada T. | Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | Treatment and impact of dyslipidemia in diabetic nephropathy. | Diabetes Care. 36(11) 3655-62. 2013. 11 |
| 172 | Shimizu M, Furuichi K, Toyama T, Kitajima S, Hara A, Kitagawa K, Iwata Y, Takamura T, Kaneko S, Wada T: Kanazawa Study Group for Renal Diseases and Hypertension. | Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | Long-term outcomes of Japanese type 2 diabetic patients with biopsy-proven diabetic nephropathy. | Eur J Immunol. 43(11) 2956-68 2013. 11 |
| 173 | Higashimoto M, Usui S, Seki A, Komura T, Honda M, Wada T, Furuichi K, Kaneko S. | Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | Adipose tissue derived stromal stem cell therapy in murine ConA-derived hepatitis is dependent on myeloid-lineage and CD4+ T-cell suppression. | Clin Exp Nephrol. 17(6) 858-65 2013. 12 |
| 174 | Kitagawa K, Furuichi K, Toyama T, Kitajima S, Hara A, Iwata Y, Kaneko S, Wada T: Kanazawa Study Group for Renal Diseases and Hypertension. | Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | Long-term observations of clinicopathological characteristics and outcome of Japanese patients with pauci-immune crescentic glomerulonephritis. | Clin Exp Nephrol. 17(6) 793-804 2013. 12 |
| 175 | Hara A, Furuichi K, Sakai Y, Mukaida N, Takuwa Y, Kaneko S, Wada T. | Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | CCL2/CCR2 augments the production of transforming growth factor-beta1, type 1 collagen and CCL2 by human CD45-/collagen 1-positive cells under high glucose concentrations. | Clin Exp Nephrol. 17(6) 793-804 2013. 12 |
| 176 | Furuichi K, Shimizu M, Toyama T, Kitagawa K, Iwata Y, Kaneko S, Wada T | Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | Japan Diabetic Nephropathy Cohort Study: study design, methods, and implementation. | Clin Exp Nephrol. 17(6) 819-26 2013. 12 |
| 177 | Nakade Y, Toyama T, Furuichi K, Kitajima S, Ohkura N, Hara A, Kitagawa K, Shimizu M, Iwata Y, De H, Nagahara M, Horita H, Sakai Y, Kaneko S, Wada T. | Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | Impact of kidney function and urinary protein excretion on pulmonary function in Japanese patients with chronic kidney disease. | Clin Exp Nephrol. 2013 Dec 15 |
| 178 | Iwata Y, Furuichi K, Hashimoto S, Yokota K, Yasuda H, Kitajima S, Toyama T, Shinozaki Y, Sagara A, Kaneko S, Wada T | Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | Pro-inflammatory/Th1 gene expression shift in high glucose stimulated mesangial cells and tubular epithelial cells. | Biochem Biophys Res Commun. 443(3) 969-74 2014. 1. 17 |
| 179 | Oshima M, Kitajima S, Toyama T, Hara A, Kitagawa K, Iwata Y, Shimizu M, Furuichi K, Kaneko S, Wada T. | Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan | Successful delivery in a patient with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis. | Intern Med. 52(14) 1605-9 2013. 7 |
| 180 | Katsunori Kitano, Soichiro Usui, Hiroshi Ootsuji, Shinichiro Takashima, Daisuke Kobayashi, Hisayoshi Murai, Hiroshi Furusho, Shuichi Kaneko, Masayuki Takamura | Department of Disease Control and Homeostasis, Kanazawa University Graduate School of Medical Science, Kanazawa, Ishikawa, Japan | Rho-kinase activation in leukocytes plays a pivotal role in myocardial chemia/reperfusion injury | Plos One 9 e92242 2014. 3 |
| 181 | Hisayoshi Murai, Shuichi Kaneko, Soichiro Usui, Hiroshi Furusho, Masayuki Takamura. | Department of Disease Control and Homeostasis, Kanazawa University Graduate School of Medical Science, Kanazawa, Ishikawa, Japan | Hemodynamic collapse induced by general hesia in a patient with an unruptured thoracic aortic aneurysm: a case report. | BMC Cardiovasc Disord. 13 122 2013. 12 |
| 182 | Akio Chikata, Hisayoshi Murai, Soichiro Usui, Hiroshi Furusho, Shuichi Kaneko, Masayuki Takamura. | Department of Disease Control and Homeostasis, Kanazawa University Graduate School of Medical Science, Kanazawa, Ishikawa, Japan | Successful Treatment of Functional Mitral Regurgitation in Severe Heart Failure with Atrial Pacing: A case report. | Journal of Cardiology Cases. 9 50-53 2014. 2 |
| 183 | Shin-ichiro Takashima | University Medical Center Utrecht, Division Cardiology & Pulmonology, Interventional Cardiology Department, Utrecht, The Netherlands. | Current outlook of cardiac stem cell therapy towards a clinical application | Heart 99 · 23 1772-84 2013. 12 |
| 184 | Daisuke Kobayashi, Hisayoshi Murai, Soichirou Usui, Shuichi Kaneko, Masayuki Takamura | Department of Disease Control and Homeostasis, Kanazawa University Graduate School of Medical Science, Kanazawa, Ishikawa, Japan | Sympathetic nerve activity in type 2 diabetes mellitus: A promising potential therapeutic target | Austin Journal of Endocrinology and Diabetes 1 · 2 1~4 2014. 2. 26 |

| | | | | |
|-----|-------------------|---|--|---|
| 185 | Sakai Y, et al. | Department of Laboratory Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Faculty of Medicine, Kanazawa University | Adipose tissue-derived stem cells as a regenerative therapy for a murine steatohepatitis-induced cirrhosis model. | Hepatology 2013. 58 (3) :1133-1142 |
| 186 | Sakai Y, et al. | Department of Laboratory Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Faculty of Medicine, Kanazawa University | Gene expression profiling of hepatitis B- and hepatitis C-related hepatocellular carcinoma using graphical Gaussian modeling. | Genomics. 2013 101(4) :238-248 |
| 187 | Sakai Y, et al. | Department of Laboratory Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Faculty of Medicine, Kanazawa University | MicroRNA-27a regulates lipid metabolism and inhibits hepatitis C virus replication in human hepatoma cells. | J Virol. 2013 87(9) :5270-5286 |
| 188 | Sakai Y, et al. | Department of Laboratory Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Faculty of Medicine, Kanazawa University | Association of interleukin-28B genotype and hepatocellular carcinoma recurrence in patients with chronic hepatitis C. | Clin Cancer Res. 2013 19(7) :1827-1837 |
| 189 | Hayashi K, et al. | Department of Clinical Laboratory, Kanazawa University Hospital | Current perspectives in genetic cardiovascular disorders: from basic to clinical aspects. | Mol Autism. 2013. 7;4(1) :22. |
| 190 | Hayashi K, et al. | Department of Clinical Laboratory, Kanazawa University Hospital | Circumferential hyperechogenicity as an ultrasound sign of infected abdominal aortic aneurysm. | Circulation. 2013. 7;128(4) :415-416. |
| 191 | Mori M, et al. | Department of Clinical Laboratory, Kanazawa University Hospital | How does the physician interpret the patient's narrative at it relates to the physical exam?; fever and weakness: clinical reasoning based on combination of symptoms. | Nihon NaikaGakkaiZasshi . 2014. 1;103(1) :200-204. |
| 192 | Hayashi K, et al. | Department of Clinical Laboratory, Kanazawa University Hospital | Vascular endothelial growth factor-bound stents: application of in situ capture technology of circulating endothelial progenitor cells in porcine coronary model. | J IntervCardiol. 201 4. 2;27(1) :63-72. |
| 193 | Hayashi K, et al. | Department of Clinical Laboratory, Kanazawa University Hospital | Erdheim-Chester disease involving the brain and the heart. | J Am CollCardiol. 2014. 3;63(11) :1121. |
| 194 | Hayashi K, et al. | Department of Clinical Laboratory, Kanazawa University Hospital | Current perspectives in genetic cardiovascular disorders: from basic to clinical aspects. | Heart Vessels. 2014. 3;29(2) :129-141. |
| 195 | Shimizu M | 金沢大学小児科 | Multiple osteonecrosis in a patient with juvenile systemic lupus erythematosus | J Clin Rheumatol. 2013 Apr;19(3) :160 |
| 196 | Taizo Wada | 金沢大学小児科 | Rapid Detection of Intracellular p47phox and p67phox by Flow Cytometry: Useful Screening Tests for Chronic Granulomatous Disease | J Clin Immunol 2013 May;33(4) :857-64 |
| 197 | Ikawa Y | 金沢大学小児科 | Expansion of a liver-infiltrating cytotoxic T-lymphocyte clone in concert with the development of hepatitis-associated aplastic anaemia. | British journal of haematology 2013 May;161(4) :599-602 |
| 198 | Ishikawa S | 金沢大学小児科 | Soluble ST2 as a marker of disease activity in systemic juvenile idiopathic arthritis | Cytokine 2013 May;62(2) :272-7 |
| 199 | Wada T | 金沢大学小児科 | Cytokine profiles in children with primary Epstein-Barr virus infection | Pediatr Blood Cancer. 2013 Jul;60(7) :E46-8. |
| 200 | Naotoshi Sugimoto | 金沢大学生理学 1 | Upregulation of aquaporin expression in the salivary glands of heat-acclimated rats. | Scientific Reports 2013;3:1763. |
| 201 | Shimizu M | 金沢大学小児科 | Cutaneous calcinosis in juvenile dermatomyositis. | J Pediatr 2013 Sep;163(3) :921 |
| 202 | Masaki Shimizu | 金沢大学小児科 | Vaginal Cyst in a Newborn | The Journal of Pediatrics 2013 Dec;163(6) :1790 |
| 203 | Wada T | 金沢大学小児科 | Down-regulation of CD5 expression on activated CD8+ T cells in familial hemophagocytic lymphohistiocytosis with perforin gene mutations. | Hum Immunol 2013 Dec;74(12) :1579-85 |

| | | | | |
|-----|--|---|---|---|
| 204 | Wada T | 金沢大学小児科 | Sustained elevation of serum interleukin-18 and its association with hemophagocytic lymphohistiocytosis in XIAP deficiency. | Cytokine 2014 Jan;65(1):74-8 |
| 205 | Shimizu M | 金沢大学小児科 | Extensive serum biomarker analysis in patients with enterohemorrhagic Escherichia coli O111-induced hemolytic-uremic syndrome. | Cytokine 2014 Mar;66(1):1-6. doi |
| 206 | Fujimoto M, Matsushita T, Hamaguchi Y, Kaji K, Asano Y, Ogawa F, Yamaoka T, Fujikawa K, Tsukada T, Sato K, Echigo T, Hasegawa M, Takehara K | Department of Dermatology, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa Japan | Autoantibodies to small ubiquitin-like modifier activating enzymes in Japanese patients with dermatomyositis: comparison with a UK Caucasian cohort | Ann Rheum Dis, 72(1), 151-153, 2013 |
| 207 | Hasegawa M, Higashi K, Yokoyama C, Yamamoto F, Tachibana T, Matsushita T, Hamaguchi Y, Saito K, Fujimoto M, Takehara K | Department of Dermatology, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa Japan | Altered expression of dermokine in skin disorders | J Eur Acad Dermatol Venerol, 27(7), 867-875, 2013 |
| 208 | Hasegawa M, Fujimoto M, Matsushita T, Hamaguchi Y, Takehara K | Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa Japan | Augmented ICOS expression in patients with early diffuse cutaneous systemic sclerosis | Rheumatology, 52(2), 242-251, 2013 |
| 209 | Hamaguchi Y, Fujimoto M, Matsushita T, Kaji K, Komura K, Hasegawa M, Koderu M, Muroi E, Fujikawa K, Seishima M, Yamada H, Yamada R, Sato S, Takehara K, Kuwana M | Department of Dermatology, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa Japan | Common and distinct clinical features in adult patients with anti-aminoacyl-tRNA synthetase antibodies: heterogeneity within the syndrome | Plos One, 8(4), e60442, 2013 |
| 210 | Hasegawa M, Higashi K, Matsushita T, Hamaguchi Y, Saito K, Fujimoto M, Takehara K | Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa Japan | Dermokine inhibits ELR(+) CXC chemokine expression and delays early skin wound healing. | J Dermatol Sci, 70(1), 34-41, 2013 |
| 211 | Hasegawa M, Imura-Kumada S, Matsushita T, Hamaguchi Y, Fujimoto M, Takehara K | Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa Japan | Anti-topoisomerase I antibody levels as serum markers of skin sclerosis in systemic sclerosis | J Dermatol, 40(2), 89-93, 2013 |
| 212 | Takehara K, Ihn H, Sato S | Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa Japan | A randomized, double-blind, placebo-controlled trial: intravenous immunoglobulin treatment in patients with diffuse cutaneous systemic sclerosis | Clin Exp Rheumatol, 31(2Suppl. 76)151-156, 2013 |
| 213 | Hamaguchi Y, Yamada K, Kawano M, Fujimoto M, Takehara K | Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa Japan | Prurigo nodularis-like skin eruptions in a patient with IgG4-related disease | Eur J Dermatol, 23(4), 541-542, 2013 |
| 214 | Matsushita T, Fujimoto M | Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa Japan | Scleroderma: recent lessons from murine models and implication for future therapeutics | Expert Rev Dermatol, 8(5), 527-539, 2013 |
| 215 | Hamaguchi Y, Matsushita T, Hasegawa M, Ueda-Hayakawa I, Sato S, Takehara K, Fujimoto M | Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa Japan | High incidence of pulmonary arterial hypertension in systemic sclerosis patients with anti-centriole autoantibodies | Mod Rheumatol, 2013 |

| | | | | |
|-----|--|---|---|---|
| 216 | Hasegawa M, Hata Y, Matsushita T, Hamaguchi Y, Fujimoto M, Takehara K. | Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa Japan | Clinical and laboratory features dependent on age at onset in Japanese systemic sclerosis. | Mod Rheumatol, 23(5), 913-919, 2013 |
| 217 | Hasegawa M, Asano Y, Endo H, Fujimoto M, Goto D, Ihn H, Inoue K, Ishikawa O, Kawaguchi Y, Kuwana M, Ogawa F, Takahashi H, Tanaka S, Sato S, Takehara K | Department of Dermatology, School of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa Japan | Serum chemokine levels as prognostic markers in patients with early systemic sclerosis: a multicenter, prospective, observational study | Mod Rheumatol, 32(6), 1076-1084, 2013 |
| 218 | Hamaguchi Y, Fujimoto M, Oishi K, Kitajima S, Wada T, Takehara K | Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa Japan | Cutaneous Mycobacterium chelonae infection in a rheumatoid arthritis patient treated with etanercept | Eur J Dermatol, 23(5), 700-701, 2013 |
| 219 | Oishi K, Hamaguchi Y, Matsushita T, Hasegawa M, Okiyama N, Dervedde J, Weinhart M, Haag R, Tedder TF, Takehara K, Kohsaka H, Fujimoto M | Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa Japan | A crucial role of L-selectin in C protein-induced experimental polymyositis of mice | Arthritis Rheum, 66(7), 1867-1871, 2014 |

計 219

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- (注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- (注) 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

| 番号 | 発表者氏名 | 発表者の所属 | 題名 | 雑誌名 |
|----|-------|--------|----|-----|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |

| | | | | |
|----|--|--|--|--|
| 14 | | | | |
| 15 | | | | |
| 16 | | | | |
| 17 | | | | |
| 18 | | | | |
| 19 | | | | |
| 20 | | | | |

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

| | |
|---|--------|
| ① 倫理審査委員会の設置状況 | 有・無 |
| ② 倫理審査委員会の手順書の整備状況 | 有・無 |
| ・ 手順書の主な内容 審査対象に関する事項、委員会の任務に関する事項、委員会の構成に関する事項、委員会の調査及び審議の対象に関する事項、資料の入手に関する事項、委員会の運営に関する事項、疑義申立てに関する事項、再審査手続に関する事項、病院長への報告義務に関する事項、申請者・病院長への勧告等に関する事項、委員会の事務に関する事項、委員会の記録の保存に関する事項 | |
| ③ 倫理審査委員会の開催状況 | 年 11 回 |

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(注) 2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

| | |
|---|--------|
| ① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況 | 有・無 |
| ② 利益相反の管理に関する規定の整備状況 | 有・無 |
| ・ 規定の主な内容 委員会の目的及び職務に関する事項、委員会の組織および組織運営に関する事項 | |
| ③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況 | 年 10 回 |

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

| | |
|---|-------|
| ① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況 | 年 2 回 |
| ・ 研修の主な内容 平成26年度に、「臨床研究と利益相反(COI)」に関する講習会(平成26年9月実施)及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(案)」に関する講習会(平成26年10月実施)を実施(計2回)。 平成25年度中については、臨床研究に係る講習会を実施したが、その内容は当時、問題となっていたディオバン事案を受け、臨床研究の適切な実施、特に臨床研究のデータの信頼性確保に必要となるデータマネジメント、生物統計などに関する事項を中心とした内容で実施しており、倫理そのものに関する内容は含まれていなかった。 | |

「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科（部）に所属し、大学病院（医員など）及び関連病院を循環しながら修練を行い、それぞれの学会等の専門医、あるいは認定医の資格の取得を目指すコースです。内科プログラム（所属する臓器別内科（診療科）の他の内科系診療科でも修練を行う等複数の診療科が協力連携して実施するプログラム）や総合診療を専門とする医師となるプログラムも可能となっています。
診療技術の習得だけでなく、臨床研究も行うことが可能です。

2 研修の実績

| | |
|--------|------|
| 研修医の人数 | 159人 |
|--------|------|

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

| 研修統括者氏名 | 診療科 | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|--------------|-----|--------|------|
| 金子 周一 | 消化器内科 | 科長 | 32年 | |
| 篁 俊成 | 内分泌・代謝内科 | 課長 | 26年 | |
| 川野 充弘 | リウマチ・膠原病内科 | 科長 | 27年 | |
| 山岸 正和 | 循環器内科 | 科長 | 36年 | |
| 和田 隆志 | 腎臓内科 | 科長 | 26年 | |
| 笠原 寿郎 | 呼吸器内科 | 科長 | 28年 | |
| 中尾 眞二 | 血液内科 | 科長 | 34年 | |
| 山田 正仁 | 神経内科 | 科長 | 34年 | |
| 三邊 義雄 | 神経科精神科 | 科長 | 36年 | |
| 谷内江 昭宏 | 小児科 | 科長 | 35年 | |
| 蒲田 敏文 | 放射線科 | 科長 | 21年 | |
| 竹原 和彦 | 皮膚科 | 科長 | 35年 | |
| 角谷 慎一 | 内分泌・総合外科 | 副科長 | 15年 | |
| 飯野 賢治 | 心臓血管外科 | 科長 | 14年 | |
| 松本 勲 | 呼吸器外科 | 科長 | 23年 | |
| 太田 哲生 | 肝胆膵・移植外科 | 科長 | 35年 | |
| 井口 雅史 | 乳腺科 | 科長 | 19年 | |
| 伏田 幸夫 | 胃腸外科 | 科長 | 28年 | |
| 土屋 弘行 | 整形外科 | 科長 | 31年 | |
| 溝上 敦 | 泌尿器科 | 科長 | 27年 | |
| 杉山 和久 | 眼科 | 科長 | 30年 | |
| 吉崎 智一 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 科長 | 28年 | |
| 藤原 浩 | 産科婦人科 | 科長 | 31年 | |
| 谷口 巧 | 麻酔科蘇生科 | 科長 | 23年 | |
| 林 裕 | 脳神経外科 | 副科長 | 27年 | |
| 絹谷 清剛 | 核医学診療科 | 科長 | 28年 | |
| 山下 太郎 | 総合診療内科 | 副科長 | 19年 | |
| 八幡 徹太郎 | リハビリテーション部 | 部長 | 22年 | |
| 後藤 由和 | 救急部 | 部長 | 30年 | |
| 谷口 巧 | 集中治療部 | 部長 | 23年 | |
| 矢野 聖二 | がん高度先進治療センター | 部長 | 24年 | |
| 川尻 秀一 | 歯科口腔外科 | 科長 | 26年 | |

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

1. 新規採用職員オリエンテーション

- (1) 病院の概要（「基本理念」、「基本方針」を含む。）
- (2) 病院情報システムの利用について
経営戦略について
- (3) 事務手続きについて
- (4) 飲酒運転の根絶について
- (5) 感染対策について
- (6) 臨床倫理について（「個人情報の保護」を含む。）
- (7) リスクマネジメントについて（「患者さんの権利」、「患者さんに守っていただくこと」を含む。）
- (8) 防火管理（防火訓練）について
- (9) 医療用放射線の安全性について
- (10) 診療報酬制度について
- (11) ハラスメントの防止について
- (12) 接遇について
- (13) 先輩からのメッセージ

2. 安全衛生講演会

安全衛生活動の一環として実施しており、平成25年度題目は「医療従事者のための腰痛予防」

・研修の期間・実施回数

1. 平成25年4月1日～3日，年1回
2. 平成26年2月27日，年1回

・研修の参加人数

1. 143名
2. 132名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

| 計画・現状の別 | 1. 計画 (2). 現状 |
|---------|---|
| 管理責任者氏名 | 病院長 並木 幹夫 |
| 管理担当者氏名 | <ul style="list-style-type: none"> ・消化器内科長 金子 周一 ・リウマチ・膠原病内科長 川野 充弘 ・循環器内科長 山岸 正和 ・血液内科長 中尾 眞二 ・神経内科長 山田 正仁 ・小児科長 谷内江 昭宏 ・放射線科長 蒲田 敏文 ・皮膚科長 竹原 和彦 ・呼吸器外科長 松本 勲 ・肝胆膵・移植外科長 太田 哲生 ・乳腺科長 井口 雅史 ・脊椎・脊髄外科長 村上 英樹 ・眼科長 杉山 和久 ・産科婦人科長 藤原 浩 ・脳神経外科長 ・歯科口腔外科長 川尻 秀一 ・薬剤部長 崔 吉道 ・経営管理課長 大久保 進 ・内分泌・代謝内科長 篁 俊成 ・呼吸器内科長 笠原 寿郎 ・腎臓内科長 和田 隆志 ・総合診療内科長 ・神経科精神科長 三邊 義雄 ・子どものこころの診療科長 棟居 俊夫 ・放射線治療科長 熊野 智康 ・心臓血管外科長 飯野 賢治 ・胃腸外科長 伏田 幸夫 ・内分泌・総合外科長 ・整形外科長 土屋 弘行 ・泌尿器科長 溝上 敦 ・耳鼻咽喉科・頭頸部外科長 吉崎 智一 ・麻酔科蘇生科長 谷口 巧 ・核医学診療科長 絹谷 清剛 ・病理診断科長 大井 章史 ・総務課長 長谷川 浩一 ・医事課長 久保 真一 |

| | | 保管場所 | 管理方法 | |
|--|--|------------------------|---|-----|
| 診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | | 医事課、各診療科、看護部、薬剤部 | 診療録は外来は1患者1ファイル、入院は1入院期間1ファイル。(電子診療録は1患者1ファイル。)診療録の院外持ち出しは、禁止されている。 | |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 総務課 | | |
| | 高度の医療の提供の実績 | 医事課 | | |
| | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 医事課 | | |
| | 高度の医療の研修の実績 | 総務課 | | |
| | 閲覧実績 | 総務課 | | |
| | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医事課 | | |
| | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医事課・薬剤部 | | |
| | 第規一則号第一に掲げる十一の体制第一の各項保各の号及び第九 | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医事課 | |
| | | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 医事課 | 開催順 |
| | | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 医事課 | 開催順 |
| | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医事課 | 発生順 | |
| | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置 | 総務課 | | |

| | | | |
|---------|------------------------------------|-----|-----|
| 木の二十第一項 | 状況 | | |
| | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 総務課 | |
| | 医療に係る安全管理を行う部門の配置状況 | 医事課 | 発生順 |
| | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医事課 | 開催順 |

| | | 保管場所 | 管理方法 | |
|------------------|---|---|----------------|-----|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況 | 院内感染のための指針の策定状況 | 医事課 | |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 医事課 | 開催順 |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 医事課 | 開催順 |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医事課 | 発生順 |
| | | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 薬剤部 | |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 | 開催順 |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 | 開催順 |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 各外来・病棟 | |
| | | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | 医事課 | |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 医事課・ME機器管理センター | 開催順 |
| | | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 医事課・経営管理課 | 発生順 |
| | | 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医事課・経営管理課 | 発生順 |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | |
|--|-------------|
| 計画・現状の別 | ①. 計画 2. 現状 |
| 閲覧責任者氏名 | 病院長 並木 幹夫 |
| 閲覧担当者氏名 | 総務課長 長谷川 浩一 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 会議室 |
| 閲覧の手続の概要 諸記録の開示（閲覧を含む）を請求する者（以下「開示請求者」）は、国立大学法人金沢大学に対し、法人文書開示請求書を提出する。 国立大学法人金沢大学は、開示請求があった日から特別な場合を除き30日以内に開示決定等を行い、開示請求者に通知する。 開示請求者は、法人文書開示決定通知書を本院へ持参し、閲覧を実施する。 | |

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| 前年度の総閲覧件数 | | 延 | 0件 |
|-----------|--------|---|----|
| 閲覧者別 | 医師 | 延 | 0件 |
| | 歯科医師 | 延 | 0件 |
| | 国 | 延 | 0件 |
| | 地方公共団体 | 延 | 0件 |

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

| | |
|---|--------------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | ①・無 |
| <p>・指針の主な内容：</p> <p>(1) 職員ひとりひとりが安全に関する認識を高め、医療事故防止に積極的に取り組むと同時に、病院全体としても組織的に医療に係る安全管理事故防止に取り組み、医療事故等の未然の防止を目指す。</p> <p>(2) 医療安全管理委員会、医療安全管理部、医療安全管理者、リスクマネージャー等による医療安全管理体制を整備し、病院全体として医療事故防止及び医療全体の向上に努める。</p> <p>(3) 医療安全管理のための研修を企画し、病院職員全体が2回以上受講できるようにする。</p> <p>(4) 「医療事故防止マニュアル」の作成、医療事故等の報告事例の検討など、医療安全の確保を目的とした改善策を実施する。</p> <p>(5) 医療事故が発生した場合にはおいては、「医療安全管理マニュアル」に沿って対応し、医療上の最善の処置を講ずる。また、患者家族に対して事実を速やかにわかりやすく説明する。</p> <p>(6) 患者との信頼関係を築くため、また開かれた医療を推進するため、情報の開示及び提供に積極的に対応していく。</p> <p>(7) 患者相談室を設置し、患者及び家族からの医療安全に関する要望、苦情及び不満を真摯に受け止め、その解決に尽力する。</p> | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 年 12 回 |
| <p>・活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療に係る安全管理対策に関すること</p> <p>(2) 医療事故防止対策に関すること</p> <p>(3) 安全管理対策のための教育及び研修に関すること</p> <p>(4) 発生した医療事故原因の分析及び改善策等に関すること</p> <p>(5) その他医療に係る安全管理及び医療事故防止に関すること</p> | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 9 回 |
| <p>・研修の主な内容：</p> <p>【平成25年度】</p> <p>「安全な移乗について学ぼう」4/16</p> <p>「消耗は病院の損失になります」 「医療用麻薬の適正管理」6/10</p> <p>「医療安全と後輩教育」9/27</p> <p>「糖尿病性腎症の治療と医療安全」「食事療法のギアチェンジ」「糖尿病の療養指導と医療安全」11/12</p> <p>「早期経腸栄養の重要性」「経腸栄養ルートの管理」「経腸栄養ポンプの台数管理」11/14</p> <p>「抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡検査」12/4</p> <p>「医療用麻薬の安全管理」1/17</p> <p>「医療機器の安全管理」1/31</p> <p>「平成25年度医療安全の取り組み」3/11</p> | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <p>・医療機関内における事故報告等の整備 ①・無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○事故報告等の分析結果を現場へフィードバック</p> <p>○医療従事者の医療事故防止に関する教育</p> <p>○事故防止のための基礎知識の提供</p> <p>○事故報告書等から必要なマニュアルを作成</p> <p>○インシデントサマリに再発防止策を提案</p> <p>○事故防止マニュアルの見直し</p> <p>○GRM等による医療現場のラウンド</p> <p>○院内の医療安全ニュースや啓発ポスターの配布</p> <p>○院外の事故情報の提供による注意喚起</p> | |
| ⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | ① (2 名) ・無 |
| ⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | ① (1 名) ・無 |
| ⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | ①・無 |
| <p>・所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (12) 名</p> <p>・活動の主な内容：</p> | |

- (1) 医療にかかる安全管理対策及び医療事故対策の企画立案に関する事
- (2) 医療安全管理マニュアルの作成等に関する事
- (3) 安全管理のための教育及び研修企画及び運営に関する事
- (4) アクシデント及びインシデント報告の調査及び分析に関する事
- (5) リスクマネジャーとの連絡調整に関する事
- (6) 医療事故等に係る診療録及び看護記録等の記載状況の確認及び指導に関する事
- (7) 患者家族への説明等、医療事故発生時の対応状況の確認及び指導に関する事
- (8) 医療事故等に係る原因究明の確認及び指導に関する事
- (9) 金沢大学医療安全管理委員会に用いられる資料及び議事録の作成、その他当該委員会の事務に関する事
- (10) その他医療に係る安全管理対策及び医療事故防止対策に関する事

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

有 ・ 無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|--------|
| ① 院内感染対策のための指針の整備状況 | ①・無 |
| <p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的な考え方2. 院内感染対策のための委員会に関する基本的事項3. 従事者に対する院内感染対策のための研修に関する基本方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染症発生時の対応に関する基本方針6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. 院内感染対策の推進のために必要なその他の基本方針 | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年 11 回 |
| <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 院内感染予防の方策及び監視に関すること(2) 院内感染対策のガイドラインの策定及びその実施に関すること(3) 院内感染についての教育活動に関すること(4) 院内感染の調査に関すること(5) その他院内感染に関して委員会が必要と認める事項 | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 6 回 |
| <p>・研修の主な内容：</p> <p>【平成25年度】 感染対策研修 (講演) 『感染制御の基本と最近のトピックス』 『インフルエンザを予防しよう』 『日頃の感染対策は大丈夫？ちょっと怖い耐性菌の話』 『褥瘡対策チーム講演会』 『第2回栄養ゼミナール』 (DVD研修会) 『安全な輸液を考える／手指衛生の促進／院内感染をめぐる医療訴訟』 その他 感染対策指導 「新規採用者対象の感染対策研修」 「静脈注射認定制度（看護師対象）に係る研修」</p> | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <p>・病院における発生状況の報告等の整備 ①・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>院内の感染制御チームの会議において、院内感染に関する問題を検討し、その改善策等を院内感染防止対策委員会に諮る。また、その改善策等を感染制御担当者（ICM）連絡会、院内ラウンド、研修会、感染対策ニュース等で院内に周知する。</p> | |

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|-------|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | ○有・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 2 回 |
| ・研修の主な内容： 【平成25年度】 1. 医療安全研修（平成25年6月10日開催） 「医療用麻薬の適正管理」「損耗は病院の損失になります」 2. 医療安全研修（平成26年1月17日開催） 「医療用麻薬の安全管理」（1）医療用麻薬のインシデント（2）フェンタニル速放剤の特徴 （3）がん性疼痛治療に使用される薬剤（4）オピオイドレスキューの適正管理 | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| ・手順書の作成 ○有・無 ・業務の主な内容： 1) 医薬品の採用 2) 医薬品情報の収集・管理・提供 3) 医薬品の購入管理 4) 薬剤部から外来および入院患者への医薬品の処方・交付 5) 病棟における医薬品の管理 6) 中央診療施設・外来部門における医薬品の管理 7) 入院患者への医薬品使用等の管理・指導 | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| ・医薬品に係る情報の収集の整備 ○有・無 ・その他の改善のための方策の主な内容： 医療安全管理部のカンファランスにおいて、インシデント事例の報告や医薬品に関する問題提起などを受けて検討し、その改善策等を院内に周知する。 | |

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|--------|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | ①・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 74 回 |
| <p>・研修の主な内容：</p> <p>医療機器の安全使用のための研修については、ME機器管理センターと放射線部が実施計画を策定して行っている。</p> <p>新規購入した医療機器は、その都度、ME機器管理センターの技士が医療機器の安全使用のための研修を使用者を対象に行っている。また、インシデントが発生した場合は、インシデント例をもとに院内で勉強会・研修を行い、使用現場で各医療機器ごとに周知している。放射線機器は放射線部が同様に行っている。</p> | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| <p>・計画の作成 (有)・無)</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>各機器の保守点検については、ME機器管理センター、放射線部で点検計画を策定し、点検計画に沿って定期点検を実施している。</p> <p>使用前点検、使用後に就業点検及び機能点検を実施している。</p> | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>今年度より医療機器安全管理委員会を設け、院内全体の医療機器の把握および安全対策を行っていく。</p> <p>特定の医療機器に関しては、使用頻度の少ない部署に向けて、随時個別に研修会の開催を行っている。また、個別研修開催の後、理解度を図るため小テストを行い、理解度が低い部分に関してはその後の研修に反映させ、更なる理解を得られるようにする。</p> | |

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

| | |
|------------------------------------|---------|
| ① 病院の機能に関する第三者による評価の有無 | ① 有 ・ 無 |
| ・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 | |
| 機関名：公益財団法人日本医療機能評価機構 時期：平成22年6月 | |

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

| | |
|-----------------------|---------|
| ① 果たしている役割に関する情報発信の有無 | ① 有 ・ 無 |
| ・ 情報発信の方法、内容等の概要 | |
| 本院ホームページにて行っている。 | |

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

| | |
|--|---------|
| ① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無 | ① 有 ・ 無 |
| ・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 | |
| 糖尿病及び糖尿病性腎症の重症化予防に取り組む糖尿病透析予防チーム、高度な栄養管理をチームとして実施する栄養サポートチーム、悪性腫瘍等の患者のうち、身体的症状又は精神症状を持つ者に対して症状緩和に係る専従のチームとして緩和ケアチーム、褥瘡の予防及び褥瘡発生時における適正な処理を図るため褥瘡対策チームを置いている。 | |